

Tsukuba

COMMUNICATIONS

Summer



- 8 特集 山中共同研究所・館山研修所
- 10 聴 渡邊 信 教授
- 12 OB&OG 西川綾子 氏
- 14 学内組織紹介 学際物質科学研究センター
- 16 名物先生登場 寺西真人 教諭(附属視覚特別支援学校)
- 18 Sports Club 馬術部
- 20 Art & Culture 宇宙技術プロジェクト「STEP」
- 22 Homeland モロッコ王国
- 24 TOPICS
- 30 リレーエッセイ
- 32 茗溪会・紫峰会
- 34 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 35 イベントカレンダー



2020年 東京オリンピック・パラリンピック その先を見据えて

副学長・理事

日本スポーツ振興センター理事長
筑波大学学長特別補佐・特命教授

体育専門学群長

阿江通良 × 河野一郎氏 × 真田 久



小学生時代に受けた オリンピック教育

阿江: 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。河野先生は、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会理事として、見事に招致成功に導かれました。本来医師である先生が、このようにオリンピックに深く関わるようになったのには、何かきっかけがあるのでしょうか？

河野: オリンピックへの憧れを最初に持ったのは小学校の時です。体育の先生が、1932年ロサンゼルス五輪の水泳男子800mリレー金メダリスト、豊田久吉先生でした。最初の授業で、金メダルに触らせてくれたことが非常に印象に残っています。それだけでも十分インパクトがありました。ものすごく素晴らしい先生で、「さすが金メダリストは違うなあ」と感動した幾つかのエピソードは、今でも心に残っています。この先生との出会いが

なかったら、今、こういうことはやっていないでしょうね。

阿江: 我々のように、体育・スポーツに係わっている者にとっては、非常に嬉しい話です。素晴らしいオリンピック教育ですね。

真田: 私もオリンピック教育を受けた1人です。小学校低学年の頃に、1964年の東京オリンピックがあり、校長先生から毎日のように、「登下校の時にゴミを拾いなさい。間もなく世界各国からスポーツ選手がやってくる。その時に東京の街が汚なかったから恥ずかしい。だから東京の街をきれいにするんだ」と言われました。後になって調べたら、こうした指導について当時のオリンピック教育の教科書に載っていたのです。その時に、自分はオリンピック教育を受けていたのだということを知りました。

2020年招致成功の鍵

阿江: 河野先生は、2006年、本学の間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授であった時に、在職派遣という形で2016年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の事務総長に就任されました。

河野: 声が掛かった時は、「失敗するからやめておけ」と周囲の人にずいぶん止められました。でも、他にやり手もいなかったし、「うまくいくか、いかないか、始めから分かっている勝負は面白くない」と引き受けました。2016年の招致はうまくいかなくて、2020年に成功したわけですが、この二つの招致には、大きな違いがありました。

阿江: どのような違いですか？

河野: 2016年招致では、「自分たちはこんな素晴らしいことができるよ」ということを訴えました。安心安全、素晴らしいオペ



レーション、経済力も問題ありませんよ、と。しかし、国際的に見ると、幾つかの点で、「自分の都合で言っているんじゃないか」と受け止められてしまったように感じます。特に、前面に出した環境への配慮については、「IOCがやることじゃない」と言われてしまいましたし、メイン会場にテロの対策上問題がある、選手村が小さ過ぎるといった問題点も指摘されました。2020年招致では、2016年招致で指摘された問題点の解決策を示した上で、「スポーツの力」を強く訴えました。

阿江: どう訴えたのか、詳しく教えてください。

河野: 東日本大震災の後、被災地にトップアスリートたちが行って、いろいろな活動をしています。その中で、アスリート自身が、「自分たちは、こんなにいろいろなことに貢献できる。スポーツの力って素晴らしい」ということに気が付いたのですね。そういうことに自ら気が付いて、訴えたアス

リートは、日本人しかいませんでしたから、非常にインパクトがあったようです。

阿江: 他にも違いはありますか？

河野: 2020年招致の際には、「スポーツ・フォー・トゥモロー」構想^{*}の発表やスポーツ基本法の施行など、日本政府の姿勢もしっかり示しました。どちらかという、2016年招致は国内にフォーカスしていましたが、「国際貢献をします。IOCが推進しているオリンピック・ムーブメント^{*}を広げることにも、ちゃんと貢献しますよ」と、国際的な視野に広げた招致をしたというのが2020年です。それから、もう一つ、忘れてはならないのは、2016年招致から2020年招致までの、2年くらいの空白期間です。この間に、他の都市はあまり具体的なことをしませんでした。日本は幾つかのことをやりました。その一つは、2011年に、嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センターを設立したこと。もう一つは、

私が直接ジャック・ロゲ元IOC会長に交渉して、筑波大学に、IOC公認の「オリンピック教育プラットフォーム」^{*}を設立したことです。さらに、この間、日本はアンチドーピングに力を入れ、総合大会…少なくともアジアの総合大会は、日本がないと開催できないという状況になりました。このような空白期間の積み重ねが、2020年招致の成功に結び付きました。

スポーツの力と 嘉納治五郎先生

阿江: スポーツの力を100年前に知っていたのは嘉納治五郎先生（本学前身・東京高等師範学校校長）ですね。

真田: 嘉納治五郎先生は、関東大震災の時に、スポーツによって社会を復興しようとして、さまざまなことをされました。震災翌年に、パリのオリンピックに出場する



あ え みち よし
阿江 通良

副学長・理事

1951年 兵庫県生まれ
1982年 筑波大学大学院体育科学研究科修了
2000年 〳 体育科学系教授
2008年 〳 体育専門学群長
2012年 〳 副学長

ことを決めたり、震災復興三大公園（隅田公園、浜町公園、錦糸公園）に競技場やプールを作ってスポーツ公園にした。嘉納先生が提案した明治神宮外苑競技場が震災の翌年に竣工すると、明治神宮体育大会を開催しました。まさに、スポーツによる震災復興です。日本人は、スポーツの力で社会を復興できるということを、この2度の大地震で、世界に示すことができるわけで、これは、世界に対する大きな国際貢献の一つでしょう。自然災害はどこでも起こりますから、その時に、スポーツがこんな風に役に立ちますよということを普遍化して社会に広めていくことは、2020年東京オリンピック・パラリンピックを開催する日本人の大きな責務の一つだろうと思います。

河野: 関東大震災の時、嘉納先生が「災じて福とせよ」と仰ったんですよね。

真田: 「福となる」でなく「福とせよ」と仰ったところに、非常に意味を感じますね。

河野: 我々も福としなければいけません。

2020年のステージに向かって

阿江: 震災復興の他にも、体育・スポーツの分野から世界に貢献できることはたくさんあると思います。その中で、筑波大学はどのようなことをしていくべきだとお考えですか？

河野: 筑波大学には、「IMAGINE THE FUTURE.」という言葉がありま

すよね。2020年東京オリンピック・パラリンピックが決定したということは、未来のステージがセットできたということですから、そのステージに向かって、嘉納先生の想いを引き継ぎながら、これから何をするか、そのステージをどういうものにするかを考えていくことが「IMAGINE THE FUTURE.」につながると思います。

阿江: 具体的に何かありますか？

河野: 先ほど話が出た明治神宮外苑競技場の後にできたのが、1958年に完成した国立競技場です。次は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新国立競技場を作ることになります。この新国立競技場は、日本の新技術のショーケースにしたいと思っています。筑波大学が今取り組んでいる研究や技術開発などを、新国立競技場で現実のものにしていただけるとありがたいですね。「障がい者の方や高齢者の方もスムーズに利用できるように」など、いろいろな面からのアプローチがあると思います。

阿江: 真田先生はいかがですか。

真田: 1964年の東京オリンピックは、欧米の考え方やマナーをいかに学ぶかというところが大きかったと思います。しかし、2020年東京オリンピック・パラリンピックは、自分たちの文化を世界にどう発信するか、日本が世界にどう貢献できるのか、そういうことを示す時だと思っております。嘉納先生の「自他共栄」という考えをいよいよ果たす時が来たのではない

でしょうか。他者へ貢献することが、実は、自分自身や社会、自国も発展していくということです。震災復興もそうですし、高齢化社会に対してどうスポーツを役立てていくかというモデルを示すこともそうです。若者をいかにスポーツに参画させていくかということや、世界の人々を日本で教育して、人材として返していくということも大事です。

日本選手強化のために

阿江: 2020年東京オリンピック・パラリンピックが成功するかどうかは、日本選手団の活躍に大きく左右されます。競技力の向上には何が必要でしょうか。

河野: 選手強化には、やはり、それなりの強化費が必要になりますが、これは国が考えていくことになると思います。しかし、強化費があるだけでは駄目で、理想的な環境を作る必要があります。そのためには、日本スポーツ振興センターもそうですけれど、チーム「ニッポン」マルチサポートの事業実施団体である筑波大学が重要な鍵を握っていると思います。それと同時に、6年先に、各競技団体で中心的動きをする人間が必要となりますから、選手育成の面からも、筑波大学の役割が重要です。

阿江: パラリンピックについても同じですか？

河野: パラリンピックの強化に関しては、オリンピックと同様の強化に加えて、指導者養成も重要になってきます。まだ実績的なものがあまりありませんから。パラリンピックの指導者を養成できるのは、今国内では、筑波大学だけではないでしょうか。それから、パラリンピックもオリンピックのマルチサポートと同じように、科学的なアプローチと研究が必要ですが、やっているところがありません。オリンピック同様にそれができる環境としての筑波大学の役割も大きいと思います。

阿江: はい、ありがとうございます。マルチサポートに関わっていますが、科学的なアプローチは本当に重要です。そして、マルチサポート事業がいい方向に進んできていますが、次に突き当たるのは人

なんですね。人が養成できているかどうか。特に、パラリンピックについてはまだまだだと思うので、今後、力を入れていかなければなりません。

河野:パラリンピックに出場している選手はトップアスリートですけど、そこで生まれてくるヒューマン・リソースや知識は、高齢化社会の日本にすごく役立ちます。そしてその知見は、この後続いてくる国にも役に立ちますからね。

真田:その通りですね。

スポーツ科学技術を世界に売り出す

河野:ちょっと違う視点なんですけれど、オリンピック・パラリンピックで、科学的なアプローチをしたら、そのノウハウと技術を世界に売り出すことができます。筑波大学も、そういう視点で取り組んだ方がいいと思います。他の国は、スポーツの新技术とビジネスがセットなんですよね。国とアスリートが、ビジネスベースでアプローチしてきます。「こんなにいい技術があるから使わないか」とか。これは国策なんです。日本も、スポーツ立国しようとしているわけですから、今後は、新技术や知見を、ビジネスという視点を持ちながら世界に発信して行って、国民のためにも、他国のためにもなるようにする、という責務があると思います。その突破口の一つは、スポーツ科学ですね。健康、生涯スポーツ、ドーピング…いろいろなアプローチができるはずですよ。

阿江:アメリカでは、「スポーツは金脈だ」というような言い方をしますね。

河野:日仏で競り合っている領域に、テキスタイルがあります。繊維ですね。いま、両方とも、テキスタイルの中にセンサーを入れ込む開発をしています。バイオメカニクス的なアプローチもできるし、高齢者の方や障がい者の方も、テキスタイルの中に入っているセンサーをうまく利用すれば、素晴らしい生活ができるわけです。かなり柔らかい生地の中に入れられるようになっているんですよ。

阿江:筑波大学ですと山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)

こうの いち ろう

河野 一郎氏

日本スポーツ振興センター理事長
筑波大学学長特別補佐・特命教授

1946年 東京都生まれ
1973年 東京医科歯科大学医学部卒業
1999年 筑波大学体育科学系教授
2001年 公益財団法人日本オリンピック委員会理事
2006年 東京オリンピック招致委員会事務総長
2011年 筑波大学学長特別補佐・特命教授
日本スポーツ振興センター理事長

が開発したロボットスーツ「HAL」があります。今は、障がい者用ですが、もっと、いろいろな分野に広がられますよね。つくば地区は、特区になっているわけですから、その辺をうまく利用しながら、筑波大学発信という形でいろいろできると思います。

河野:発信力って大事ですよね。

真田:大事ですね。

誇れる日本の「体育教育」

河野:世界に発信すべき日本の素晴らしさに、小学校から大学に至るまで一貫して行われている体育の授業があります。日本人にとっては、当たり前を感じるかもしれませんが、これは実は、世界に誇れるすごいことです。

阿江:これもまた、嘉納先生の偉大な功績の一つですね。

真田:そうですね。嘉納先生は、1915年に、東京高等師範学校に体育科を作りました。それまでの体操科は修業年限が3年でしたが、体育科は4年制となり、他の教科と同等になりました。体操科に科学的な効率性を加え、教育学とも隣接させ、さまざまな運動の指導者に学問的な知識を身につけさせて指導させるために作ったのです。そこから100年経って、日本には嘉納先生の考えが定着し、小学校から大学まで体育が行われているわけです。

河野:日本の国民は、学校体育の恩恵を受けているということを空気と水のように感じていると思いますが、この空気と水がない国がたくさんあるんですよ。

さな だ ひさし

真田 久

体育専門学群長

1955年 東京都生まれ
1981年 筑波大学大学院体育研究科修士
2008年 大学院人間総合科学研究科教授
2012年 体育専門学群長
2014年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与



阿江:この間、柔道の見学をしていたインドの方に、少し体験してもらったのですが、理解力があり、体もしっかりしているのに、前回りができないんですね。日本で教育を受けた人には考えられません。空気と水と仰ったように、当たり前と思っているけれど、大変なことなのです。

真田:マザー・オブ・ザ・スポーツと言われているイギリスですら、ロンドンオリンピックの後に、「学校で体育・スポーツができないと、結局子供たちのスポーツ参加は増えない」ということになって、学校体育の発展のために、2年間で300億円の予算を付けました。そのモデルは、日本にあるわけです。ただ、その予算がだんだん削られてしまっていて、成功するかどうかわからないという感じになっているようなのですが…。

河野:日本では、きちんと体育の授業が行われ、課外活動も行われているというモデルを、しっかりと日本の財産として、世界に発信すべきです。我々はアピールすべき立場にあると思います。

真田:嘉納先生は、水泳教育にも力を入れたので、日本では、学校におけるプール設置率が80%を越えています。このデータを見せるだけでも、外国の研究者や教育者はびっくりします。こういうことについて2020年を契機として、きちんと世界に発信していくことですよね。それ自体が、非常に重要な世界への貢献になります。

阿江:そのためには、小中高大と組織的に体育があることによる効果を、科学的な調査で示すことができるといいですよね。そのような面でも、本学が貢献できることがたくさんあると思います。

真田:日本選手には、ドーピングの陽性者が少ないというのも、学校教育とスポーツが非常に近い関係で育ってきたということに大きな要因があります。

阿江:小さい頃からドーピングは駄目だと学習しているということですよ。

真田:そういうことも含めて、きちんと理論的にまとめて出さないとけません。ここは大事です。

オリンピック教育

阿江:先日、東京都が、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて幼稚園から高校までの五輪教育推進校300校を認定し、「オリンピック教育」※を進めていくことになりました。この「オリンピック教育」においても、本学が大きな役割を担っています。

真田:本学では、総合科目で、2003年から「五輪講座シリーズ」を続けてきましたし、2010年から「嘉納治五郎講座」を開講しました。さらに、本年度からは、2020年東京オリンピック・パラリンピックで「ホスト役」として活躍できる人材を育てるため、ビジネスマナー研修などを手がける江上いずみさんによる「おもてなし学」講座も始めました。このようにオリンピックについて教育的視点で教えていくというのが本当に大事なことだと思います。このような取り組みを本学で継続して行っているのが、嘉納先生の理念も継承されていくわけです。「オリンピックは単にスポーツのためだけではなく、文化や芸術、社会そのものも含めて発展させていくもの」という捕らえ方を2020年までに、日本中に浸透させることができるといいですね。

阿江:真田先生は、推進校の教員を対象とした研修会の講師も担当されています。

真田:本学や附属学校で行われているオリンピック教育に対して関心が高まっているということをひしひしと感じますね。推進校以外でも、全国から、ぜひオリンピック教育をやりたいという相談が持ち掛けられています。それから、今、日本の大学とオリンピック組織委員会で連携して、次のオリンピック・ムーブメントを考えていこうという提案をしているのですが、550におよぶ大学が連携協定を結びそうです。「オリンピック史上、数百もの大学が関わるなんてことはなかった」と、IOC委員もびっくりしているんですよ。大学生が、「次の時代の社会は自分たちで作っていく」ということをしっかりと認識するような機会にしたいですね。

2020年を超えて

河野:世界はスポーツの力を求めています。日本にはまだ、所詮スポーツと考える人がいます。スポーツはもっと社会に近い存在であることを認識してもらいたいですね。我々は、「スポーツが社会を引っ張る」という気概を持って取り組んでいく必要があります。

阿江:学生を指導する方も、スポーツをやっている人も、昔みたいに「スポーツマンだから駄目」でなく「スポーツマンだから良い」という自覚を持たないとね。

河野:文部科学省の中にも、体育関係の人の数が少ないのですが、国を動かすのに、もっとスポーツに関わってきた人が加わった方がいいと思います。2020年東京オリンピック・パラリンピック



開催決定は、スポーツが日本を引っ張る、とてもいいチャンスになるでしょう。スポーツ庁もできることですね。

阿江: 本当がいいチャンスです。

真田: 本学には、東京開催が決まってから、スポーツの面でも勉強の面でも優秀な学生が入ってきていますし、心も外に開いているように感じます。

阿江: 全国の体育系の大学は、軒並み志願者が増えているようです。今の学生は、ちょうどいい頃に東京開催が決まって、幸いですよね。日本でオリンピック・パラリンピックを開催するということは、やはりすごいことですよ。

河野: この高揚感を、内に閉じないようにしないと。

阿江: 高揚感をうまく使って、学生の能力をどんどん引き出したい。学生はいく

らでも伸びますからね。

真田: この勢いが2020年で終わったら意味がないので、その後も続いていくようにしなければなりません。

阿江: 10年後、20年後に、指導者やアスリートを支えるスタッフとして活躍する人材を作っておかなければなりませんからね。先ほど、発信力が重要だという話が出ましたが、イギリスのラフバラ大学や、ドイツのケルン体育大学など、世界の大学との連携が進んでいますから、世界レベルで切磋琢磨しながら、体育・スポーツにおける本学の発信力をより高めていきたいところです。本日はありがとうございました。

※「スポーツ・フォー・トゥモロー」

五輪招致に際して、政府が「2020年までに100カ国以上1000万人にスポーツの喜びを伝える」と公約した構想

※オリンピック・ムーブメント

IOC(国際オリンピック委員会)は、世界中でスポーツを振興するとともに、スポーツを通して「心・身・知」のバランスのとれた人間の育成と国際理解・国際平和の推進をその活動理念としており、この理念を普及していく活動をオリンピック・ムーブメント(オリンピック運動)と呼んでいる。

※「オリンピック教育プラットフォーム」

(CORE: Centre for Olympic Research and Education) 2010年12月、嘉納治五郎生誕150周年を記念して設立。日本で初めてIOCの公認を受けたオリンピック研究センター(Olympic Studies Centre、世界に31組織)として、国内外関係諸機関とともにオリンピック研究・教育を推進。

※オリンピック教育

オリンピック教育とは、教育を通して、オリンピック・ムーブメントの普及を推進することであり、スポーツやオリンピックを題材にして、国際理解を深め、国際平和の重要性を理解し、他者に貢献し得る力を養うための教育。具体的な実践内容としては、オリンピックの理念と歴史の学習、オリンピックに関連した文化や社会問題等に関する学習、オリンピックの精神やスポーツの価値についての学習など。



ゼミに、合宿に、観光に！ 山中共同研修所・館山研修所へ行こう

筑波大学には、山梨県山中湖村と千葉県館山市の2か所に研修所があります。いずれも会合や研究発表会などに利用できるセミナー室を備え、周辺には観光やレクリエーションを楽しめる環境があります。豪華ホテルとはいきませんが、安価な料金で利用でき、四季を通じて豊かな自然に親しめるのも魅力。研究室のゼミ、部活動やサークルの合宿はもちろんのこと、家族や友人連れでの小旅行にも最適です。山へ、海へ、ちょっと遠出してリフレッシュしませんか。



山中共同研修所

最大のアピールポイントは、なんといっても世界文化遺産の富士山。つくばや東京から見える富士山とは大きさが桁違いです。しかもすそ野までの美しい姿を眺めることができます。その富士山の麓、山中湖畔に研修所があります。看板は大きな通りに出っていますが、門を入り歩いて5分ほど、鹿にも出会えるという静かな林を抜けると、グラウンド①と研修所の建物②が見えてきます。さらに敷地の裏門から出ると、そこはまるでプライベートビーチ③。背景に富士山を従えた山中湖が広がっています。

山中湖は周囲約14km、湖畔に沿って遊歩道やサイクリングのコースがあります。湖ではスワンボートや水陸両用の「KABAバス」④での遊覧、名物のワカサギやブラックバス釣り、冬はスケートなどを楽しむことができます。パーベキューのできるキャンプ場も徒歩圏内。車で少し行けば、富士山の絶景を望むビューポイントや温泉もあり、富士山観光や登山の拠点としても便利です。

研修所の近くにはテニスコート・サッカー場・屋外シアターなどを備えた総合スポーツ施設があります。このエリアは他大学の研修施設なども多く、運動部の合宿も盛んに行われています。

山中湖村では、ハイキングや自然観察のツアー、テニスやマラソン大会、野外ライブ、「ダイヤモンド富士ウィークス」や「紅葉祭り」などのイベントが年間を通じて毎週のように開催されており、どの季節でも退屈することはありません。

研修所では20台ほどの自転車を保有しており、利用者には無料で貸し出しを行っています。整備は万全、二人乗り自転車なら、自転車にあまり慣れていない人でも安心です。卓球台やソフトボールの道具もそろっていますので、ゼミなどの合間の息抜きにも事欠きません。離れにはひなびた和室があり、落ち着いた空間でくつろぐことができます。新宿駅から高速バスで約2時間半、バス停からもほど近い山中共同研修所。たまには小旅行などいかがでしょう。



【管理人から一言】山中共同研修所

この研修所の管理人を始めて20年ほどになります。夏はエアコン不要の涼しさで、スポーツやアウトドアの活動に最適です。冬の寒さは厳しいですが、山頂に太陽が沈むダイヤモンド富士や、氷上でのワカサギ釣りなど、冬ならではの楽しみがあります。山中湖村の中心部は湖の対岸なので、少し寂しいかもしれませんが、富士山を眺めるなら断然こちら側です。建物は古くなりましたが、改装を重ね、利用者の皆さんが快適に過ごしていただけるようにしています。雄大な自然を満喫できる山中湖へぜひお越しください。(高村好美さん)



利用方法(各施設共通)

【利用対象者】

- ・関東甲信越地区に所在する国立大学の学生および職員
- ・その他、担当副学長が適当と認める者(教職員・学生の家族、卒業生など)

【使用料】

- ・宿泊費: 2,000円(1人1泊)
- ・食費(1食あたり): [朝食] 500円 [昼食] 700円 [夕食] 900円

※各施設の詳細については、下記HPで確認してください。

山中共同研修所 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/facilities/s-yamanaka.html>

【予約手続き】

- ① WEBで <https://kensyuujyo.sec.tsukuba.ac.jp/recreations/>
- ② 電話で 029-853-2250
- ③ 窓口で 学生部学生生活課(スチューデントプラザ3階)

【受付期間】

利用開始日の2ヶ月前から7日前まで。
ただし、夏季(7~9月)は4ヶ月前から5日前まで。

【申込み・問い合わせ窓口】

学生部学生生活課(TEL: 029-853-2250 スチューデントプラザ3階)

館山研修所 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/facilities/s-tateyama.html>

館山研修所

館山駅から海へ向かってヤシの木の並木道を歩いて約3分、もう気分は南国です。目の前に広がる北条海岸⑤の手前に研修所⑥が建っています。房総半島の南端に近い館山市は、普段は穏やかで静かな土地柄ですが、海水浴シーズンともなれば、海の家が立ち並び、大勢の人でにぎわいます。冬でも温暖な気候のため、ウィンドサーフィンやスキューバダイビング、釣りなどのマリンスポーツは年中楽しむことができます。アクアラインが開通してからは、横浜方面から訪れる人も増えました。

館山の魅力は海だけではなくありません。冬の終わりから夏にかけては花の季節。ポピーや菜の花などの花摘みやイチゴやピワ狩りができる畑や果樹園がたくさんあります。屋外彫刻なども見学できる市立博物館・フィールドアスレチックで遊べる児童公園などがある城山公園も、桜・ツツジ・アジサイ・椿など四季折々の花を見ることのできる憩いのスポット。山頂には南総里見八犬伝に関する展示がある館山城⑦もあり、海を望む眺めは最高です⑧。また、日帰りできる温泉や、市立博物館分館・展望デッキなどがある交流施設「渚の駅」もあります。そし

て、館山に来たら、やっぱり新鮮な魚介類を食べたいもの。隣の南房総市で獲れるクジラも名物です。残念ながら衛生管理上、

研修所の食事には生ものを出すことができませんが、駅前には寿司や海鮮料理のお店がたくさんあります。地元の食材だから値段もリーズナブル。食事の申し込みをしない利用者も多いとか。

もうひとつ、館山研修所のおすすめが10人用の宿泊室。2段ベッドが並んでいるのは珍しくありませんが、さらに6畳ほどの畳のスペースがあり、ただ寝るためだけの部屋ではないユニークな空間になっています。修学旅行のような楽しい時間を過ごせるかも。つくばからおよそ120km、東京駅からは高速バスで2時間弱。館山駅に着いたらすぐそこにある、気軽に行けるリゾートです。



【管理人から一言】館山研修所

館山のベストシーズンはやはり夏です。駅からも近く、研修所を出て道路を渡ればすぐに海岸という、とても便利なロケーションです。少し足を延ばせば、花や果物、ゴルフ、釣り、温泉なども楽しめます。1年を通して穏やかな気候ですので、夏以外のシーズンでもゆったりのにんびり過ごしていただけます。ピアノや卓球用具、将棋盤などの貸し出しもやっております。潮風や砂で施設が傷まないように補修・改修のメンテナンスもしっかり行い、皆さまのご利用をお待ちしています。(吉田順一さん)



オーランチオキトリウムは、光合成をしな
い藻類で、DHA(ドコサヘキサエン酸)を作り
ます。DHAは魚に含まれる健康成分とし
て知られていますが、それは餌である藻が作
り出し、魚の体内に蓄積されたものです。さ
らに本学では、高級炭化水素であるスクアレ
ンを蓄積するものを見つけ、大量培養に成
功しています。スクアレンは保湿やアンチエイ
ジングに効果があるとされ、付加価値の高い
化粧品やサプリメントなどへの応用を検討中
です。

藻類バイオマス研究の 数奇な道のり

藻類バイオマスの研究は、国際情勢に翻弄
され、中断・再開を繰り返してきました。最
初にオイル利用の研究が始まったのは
1970年代のアメリカでした。第1次オイル
ショックに見舞われ、石油に代わる燃料開発
が急務となったためです。この研究は
1990年代半ばまで続けられましたが、皮
肉にもその頃、原油価格は安値で安定し、研
究の必要性は失われていきました。

これと入れ替わるようにして、日本での
研究がスタートしました。地球温暖化がク
ローズアップされたためです。藻類に二酸化
炭素を吸収させようと、10年間にわたる
大規模な国家プロジェクトが実施されまし
た。しかし事業化のめどが立たないまま計画
は終わり、以来、藻類研究に対する国の支
援はほとんどなくなりました。

次の波がやってきたのは2007年です。
この時も石油高騰がきっかけでしたが、過性
の経済状況ではなく新興国の急激な発展が

原因であり、恒常的な対策として、再び藻
類に世界的な関心が集まりました。筑波大
学ではこの波が来る数年前に藻類研究に着
手していました。初めは風当たりが強かった
ものの、有望な研究成果と2007年の波
を契機に、国からの研究支援が再開されま
した。藻類は筑波大学でよみがえったのです。

社会還元へのステップ

多くの困難を乗り越えて復活を遂げた藻
類研究。目指すは実用化です。これまでに
培った生産技術を最適化し、市場競争力の
ある生産コストを達成しようとしています。大
規模な実証設備は筑波大学にしかない重要
な研究拠点。生物学を中心とした基礎研究
から、スケールアップや用途開発に向けて、エン
ジニアリングや化学・医学なども含めた全学
的な研究体制を整えつつあります。

エネルギーの多様化や地球温暖化は世界
共通の課題です。経済原理とは別の次元で、
欧米では航空機や軍事に使用する燃料の一
定割合をバイオ燃料に置き換えていくとい
う方向性を明確にしています。日本もこの
流れと無関係でいることはできず、既存の制
度や行政の枠組みの改革の面からも、藻類バ
イオマスの実用化が急がれます。

燃料だけでなく、石油化学製品、化粧品や
サプリメントなど、無限の可能性を秘めた藻類
バイオマス。産業化を視野に、民間企業80社が
参加するコンソーシアムを立ち上げ、情報交換や
市場開拓も積極的に進めています。技術的な裏
付けをしっかりと確立し、それを糧に社会還元へ
のステップを着実にクリアする。その先では藻類
の花が咲き乱れているに違いありません。

わた なべ まこと
渡邊 信 教授(生命環境系)

- 1948年 宮城県生まれ
- 1977年 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了
- 1978年 環境庁国立公害研究所(現:国立環境研究所)
水質土壌環境部研究員
- 1994年 筑波大学大学院生物科学研究科教授(併任)
- 2001年 国立環境研究所生物圏環境研究領域長
- 2006年 筑波大学大学院生命環境科学研究科教授

聴

渡邊 信 教授 (生命環境系)

いよいよ花開く藻類研究 バイオマスの秘められたパワーを世界へ

藻類バイオマスから燃料や化学製品の原料を取り出す研究は、筑波大学を代表する先進的な研究プロジェクトのひとつです。今年3月には、大規模実証施設が完成し、藻類が創出するオイルは実用化に向けて大きな一歩を踏み出しました。生命環境系の渡邊信教授はこのプロジェクトの代表者、また、藻類バイオマス研究のバイオニアとして、研究の推進と産学連携の枠組み作りに取り組み、さらにその成果を世界へ還元しようとして、精力的に活動しています。

藻類が地球をつくる

藻類。陸上植物と同じように光合成をする植物です。ただし、根や茎ははつきりしておらず、きれいな花も咲きません。けれども、生命の進化の過程で最も原始的なものである藍藻類から私たちにも身近な海藻類まで、極めて広範な系統の植物を含みます。

分類的には下等な植物の藻類ですが、現在の地球を形作る上で重要な役割を果たしてきました。おおよそ30億年前、地球がまだ原始の海に覆われ、大気のほとんどが二酸化炭

素だった頃に、最初の藻類(藍藻)が出現して

光合成を始めました。生成した酸素が、海中の金属を酸化して鉄鉱石などの鉱物をつくり、大気を酸素豊富な組成に変えました。中東で産出する石油も藻類が由来です。1億年ほど前に大繁殖した藻類が海底に沈み、高温高圧の環境下で石油になりました。人類の文明は藻類のおかげで成り立ちとも言えるのです。

このような大仕事をやってのけてきた藻類の潜在的なオイル産生能力を、資源として利用する研究に注目が集まっています。

石油の代替として、二期、陸上植物を使ったバイオ燃料が脚光を浴びました。しかしその多くは大豆やトウモロコシなど、本来は食糧となる作物を原料とするため、普及は進みませんでした。一方、藻類は食糧問題と相反せず、水と養分と光さえあれば栽培できるので農地も不要です。さらに陸上植物の数十分の一程度の土地で生産できるため、数十分の一の土地で生産できるため、これを使わない手はありません。

燃料から化粧品まで

未知の種も含めると1000万種を越えると言われる藻類の中から、選んだのは2つ、ポトリオコッカスとオーランチオキトリウムです。両種とも石油の主成分である炭化水素オイルを産生しますので、そのオイルは運輸燃料として最適な原料であり、さらに化学製品や化粧品などの原料にもなります。まさしく、石油代替バイオオイルと言えます。まさしく、ポトリオコッカスは、1960年代から基礎



藻類バイオマスの大量培養を行うための大規模実証施設



藻類産オイルと軽油を混ぜた燃料を使った自動車のデモ走行も成功

研究が続けられてきましたが、増殖が遅くオイル産生効率が低いという問題がありました。遺伝子操作で品種改良をしようにも、細胞の殻が硬く、従来の遺伝子導入技術が使えなかったのです。様々な手探りの末、ごく最近、ようやく新しい遺伝子導入技術が完成し、これから飛躍的に品種改良が進むと期待されています。

NHK番組「趣味の園芸」講師としてお馴染みの西川綾子さん。小さい頃から花が大好きで、本学農林学類に進学。花とともに歩み続けてきた半生を語っていただきました。

にし かわ あや こ

西川綾子さん 水戸市植物公園園長

1979年 筑波大学 第二学群農林学類入学
 1983年 卒業
 1986年 株式会社 日比谷花壇造園土木に入社
 株式会社 日比谷花壇造園土木退社
 株式会社 日比谷花壇造園土木入社
 株式会社 日比谷花壇造園土木退社
 1987年 株式会社 日比谷花壇造園土木退社
 株式会社 日比谷花壇造園土木退社
 1991年 水戸市植物公園の開園にあたり水戸市役所に入所
 1993年 NHK「趣味の園芸」講師
 1993年 水戸市植物公園園長 就任
 2009年 第14回NHK関東甲信越地域放送文化賞を受賞
 2012年 水戸市植物公園で七ツ洞公園の管理を開始
 著書「よくわかる栽培12ヶ月サルビア」(NHK出版) ▶



— 筑波大学に進学したのはどうしてですか？

農林学類があったからです。小さい頃から花が大好きで、小学校の卒業文集に書いた夢は、「農学を学んで大農園を開きたい」でした。東京の下町の、商店街がわーっとあるようなところで育ったので、緑いっぱいキャンパスがとても嬉しかったですね。花き園芸を専攻すると決めたので、1年生のときから農林技術センターに出入りし、アルバイトをしたりしていました。ジャージ姿に長靴で一輪車を引いて、カーネーションの花芽かきやスイセンの球根掘りなんかをして…変わった学生だったと思いますよ。珍しかったからか、農林技術センターの技官さんたちにとってもかわいがってもらいました。筑波大学には農

林技術センターがあって、実学が学べるところが素晴らしいと思います。

— 卒業研究も農林技術センターで取り組まれたそうですね。

当時はバイオがはやり始めた頃で、同じ専攻でも研究室で分析する卒論が多かったのですが、私は実学の方が好きで、農林技術センターで「アザレアの開花調節」をテーマに卒業研究をしました。指導教官の渡部弘先生に学生は私1人。薬剤の反応を調査したり、日光に当たる時間を調節したりして、自分の思い通りに花を咲かせるための実験を繰り返しました。この時に学んだことが、植物公園のイベント開催日に合わせて花を咲かせたりするのにとても役立っています。開花調節をすると、一気に咲く

ので、見栄えもよくなるんですよ。

— 卒業後はどのようなお仕事をされたのですか？

日比谷花壇に就職し、花壇の設計をしました。設計をするには、縦に伸びる「ケイトウ」は1平方メートルに6×6の36株必要、「ペチュニア」は横に広がるから5×5の25株でいい、といった知識が必要です。それぞれの特性や成長した時の背丈のバランス、花や葉の色の配色も考えなければなりません。こうしたことは大学で学んでいなかったもので、一つ一つ現場で覚えていきました。この時に学んだことも、やはり今すぐ役立つと思います。日比谷花壇で3年くらい働いた後、植物専門の出版社に移りました。文を書くのが好きで、「植物



の本に関わる仕事をしたい」という学生時代からの夢を実現させたのです。

— 水戸市植物公園※で働くことになったきっかけは？

出版社で記事を書く仕事がしたかったのですが、実際は、他人の原稿を集める仕事が多く、入社してすぐに、自分がやりたい仕事は編集ではなかったことに気が付きました。転職して5ヵ月経った頃、渡部先生に、「新しく作る植物公園に行かないか」と声を掛けていただいたので、喜んでお引き受けしたのです。風が吹くままという人生ですよ(笑)。でも、この短い期間に学んだこともすごく役立っているの、何一つ無駄にはなっていません。

— 1993年には、水戸市植物公園の園長に就任されました。園長として心掛けていることはありますか？

花を植えて、植物を守るだけではなく、子どもからご年配までいろいろな人が来て、何かを学んで、「来て良かった」と帰っていく、植物をテーマにした教育の場であることを目指しています。こんな風に考えるのは、筑波大学で学んだからでしょうね。先生も先輩も「研究と教育の両立」とよく仰っていました。植物公園の職員は5人しかいないので、10団体延べ200人近いボランティアの力を借りて植物公園を維持・管理をしているのですが、ボランティアの方にも、来るたびに何かしら勉強になったと思ってもらえるように、自分自身も日々一生懸命勉強しています。

— NHK番組「趣味の園芸」の講師をはじめ、全国各地での講演活動もされています。最近では水戸市の七ツ洞公園※も植物公園が管理することになったようですね。大変ではありませんか？

めちゃくちゃ大変です！七ツ洞公園は、15年前に開園した本格的なイギリス式庭園ですが、年月が経つにつれて荒廃してしまっていて、心が痛んでいました。ですから、公園の再生プロジェクトを頼まれた時点でも目いっぱい忙しかったのですが、「今自分が頑張らないと、この庭は永遠に復活しないかもしれない」という思いで引き受けました。でも、今までもそうでしたが、一生懸命やっていると、誰かが助けてくれるものですよ。この公園の再生プロジェクトでは、芸術系の鈴木雅和先生にもサポートしていただいています。

— 具体的には、どのような取り組みをされているのですか？

この公園には、「秘密の花園」※をイメージした直径50mの円形イングリッシュガーデンがあります。イングリッシュガーデンにはバラが欠かせませんから、37種類約130本のバラを新しく植えました。さて、どんなバラを植えたと思いますか。皆さんはバラを買うときに花で選ぶでしょう。でも、花より環境に合うかどうかで選ぶことが重要です。私は、バラの中から、比較的手入れに手間のかからない、デビットオースチンというブランドのイングリッシュローズを植えることに決めて、そのブランドのテクニカルアドバイザーを現地に呼びました。そして、「日当たりがあまりよくなくても咲くタイプ」、「後ろのバラが見えるように、背が高くないタイプ」など、環境に合わせてバラを選んでもらいました。

— 植える場所にその植物が合うかどうかが大切ですね。

イギリスのコンサルタントが設計した花壇の図面も残っているのですが、その通りに作ると、寂しそうな庭になってしまいます。イ

ギリスと日本では気候が違うので、梅雨で蒸れてしまったり、花の色が呆けたり、花の数が少なくなったりします。日本人は、イギリス人より派手な花を好みますし…。ですから、目指すのは、イギリス風ガーデン。ハウセンカは、イギリスにない花なので、イングリッシュガーデンには植えないものですが、植えてみたら、まあ綺麗なところ。ここでは、環境に合う花をうまく組み合わせるようにしています。

— ところで、今関心を持っていることや、将来の夢はありますか？

江戸時代の花が面白いですね。江戸時代の「本草学」(薬草学)の本を読んで、植物公園の薬草園で活動している「薬草栽培ボランティア」の方々に伝えたりしています。そして、もっともっと年を取ったら、全国で園芸教室を開きながら、各地の地酒を飲んで回りたい。お酒好きになったのも、筑波大学のおかげです(笑)。

— 最後に、本学の学生にメッセージをお願いします。

友達と楽しく勉強して、たくさん遊んでほしい。机の上の勉強だけでは世の中で役に立ちませんから、何でも体験してください。それからもう一つ。もっと筑波山に行ってください。せっかく近くに素晴らしい自然があるのですから。ケーブルカーで筑波山頂駅に行って、自然研究路コースを散策するだけでも十分楽しめますよ。

※水戸市植物公園 清掃工場の余熱を利用した観賞大温室や熱帯果樹温室、植物をテーマにした展示会や講座を開催する植物館、芝生園、薬草園などがある水と緑あふれる洋風の庭園。約8ヘクタール。
<http://www.mito-botanical-park.com/>

※七ツ洞公園 大小5つの池と清流、それを取り囲む森からなる約10ヘクタールのイギリス式庭園。
<http://www.nanatsudo-park.jp>

※「秘密の花園」 イギリス生まれのアメリカ人作家、フランス・ホジソン・バーネットによる小説。堀で囲まれた秘密の庭が物語の舞台。



つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。

学際物質科学研究センター

Tsukuba Research Center for Interdisciplinary Materials Science

Introduce

環境問題やエネルギー確保は地球規模の重要課題です。これに取り組むためには、従来の枠組みや分野を越えた研究体制が不可欠。また、研究成果を社会に還元するための連携も求められます。さまざま専門分野を融合し、新しい機能性物質の開発を通してグリーンイノベーションを創出する。その活動のハブとなるのが学際物質科学研究センターです。

中村 潤児 センター長



通称「白川センター」

筑波大学名誉教授の白川英樹先生がノーベル化学賞を受賞されたのは2000年のことでした。これを記念して、2003年4月に学際物質科学研究センターが設置されました。通称「白川センター」。工学と理学を融合した研究体制を構築し、基礎的な学問を深めるとともに社会の中で役立つ技術へと還元することが、設立の理念です。

ノーベル賞受賞研究となったポリアセチレンの開発は、分野にとらわれない学際研究から生まれたもので、その成果は広く活用され、社会に大きな影響をもたらしています。物理や化学をベースとしたさまざまな分野の研究者が一つの組織に属し、新しいものを創りだしていくことは、まさに「白川センター」の目指すところであり、筑波大学の誇りでもあります。

イノベーションへつながる研究活動の中で、大学に望まれるのはやはり学理

の探究です。この役割を十分に担えるよう、2011年に改組を行い、分野融合を推進する方向性を一層強化しました。

環境エネルギー問題に取り組む

学際物質科学研究センターで行われている主な研究テーマはバッテリー、太陽電池、燃料電池、触媒、熱電変換素子など。いずれも環境エネルギー問題に対応するための研究です。

環境エネルギー問題は、人口増加や温暖化への対策、エネルギー確保などを含む、地球規模で取り組むべき重要な課題です。特に、再生可能エネルギーが普及するためには、自然エネルギーを電気エネルギーに変換する技術や、そのエネルギーを貯めておくためのデバイスが不可欠ですが、それらの性能はまだ不十分。材料に希少金属が使われるなど、コスト的にも実用レベルには達していません。また、材料の劣化や量産技

術など、クリアすべきことが山積している難度の高い研究分野です。それだけに社会の期待も大きく、基礎研究をしっかりと進めることが重要です。

物質材料の研究は、筑波大学の得意分野のひとつです。センターでは、これと環境エネルギー問題とを掛け合わせた領域にフォーカスしています。「東日本大震災を経験して、人間はエネルギーなしに生きていけないことを実感しました。エネルギー問題に貢献する成果をこのセンターから生み出し、世界に広げていきたい」と、中村潤児学際物質科学研究センター長は熱く語ります。

センターの研究活動は、「創る」「調べる」「設計する」の3本柱から成っています。つまり、化学的・物理的に材料を創る、物質の性質を解析する、そして、理論に基づいて物質を設計する、の3つです。学外の客員研究員も含めた約40名の研究者が、この3本柱をバランスよく支えています。



固体表面での反応を解析するための超音速分子線装置



センターの活動は2つの建物に分散して行われている



今年の1月にはドイツ・中国の研究機関と合同シンポジウムを開催した



開所式典の様子



開所式典で挨拶する白川英樹名誉教授

分野融合がイノベーションのカギ

ひとことに「工学と理学の融合」と言っても、具体的にどうすればよいのでしょうか。理学には孤高に真理を追求する、工学には実用的な技術開発を目指す、というイメージが定着しており、現に両者の雰囲気はずいぶん違います。分野に関わらず、自分の研究領域に閉じこもってしまう「たこつぼ化」も起こっていて、研究の視野が狭まる傾向も根強くあります。

センター設立当初は、異なる分野の研究者が1か所に集まればなんとかないと考えていました。しかし、問題は組み合わせです。融合すべき分野は研究目的によって異なる上、必ずしもうまくいくとは限りません。最適な分野の組み合わせで効果的に研究が進められているか、常にセンターのメンバーでチェックしています。真に機能する融合を実現するには、絶えざる改革が欠かせません。

その一環として、ワークショップや研究会、セミナーなども活発に開催しています。学内の研究者だけでなく、学外・海外の研究機関や企業なども交えた情報交換は、異なる分野に関する知見が広がり、新しいアイデアが生まれる重要な機会ですが、実際にそのような場を設け、参加を促すことは容易ではありません。組織運営の中にそのための役割を組み込んで、能動的に融合の土壌を醸成することも、筑波大学らしいチャレンジです。

名実ともに世界レベルを

今、センターにいちばん望まれるものは「建物」です。研究活動は各構成メンバーの研究室をベースに進められていますが、実はセンターの名を掲げた建物はありません。研究者がいつでも交流できるハブとしての環境を整えるのはもちろんのこと、子供たちが見学したり、イベント

を開催するなど、さまざまな人が集まる拠点を持つことは、「白川センター」が名実ともに世界的な研究センターに発展していくためにも重要です。「環境エネルギーは、文系も含めてあらゆる分野が関与できる研究テーマです。数理物質系の枠組みを超え、オープンな議論の中で研究するマインドが育つ場所になることを目指しています」(中村センター長)

融合の努力は少しずつ実り始めています。リチウムに代わるナトリウムイオン電池、白金を使わないカーボン触媒、希少金属を使わないケイ素ラジカル電池、純度の高い有機太陽電池材料など、新しい素材やデバイスの基盤となる研究が成果を上げつつあります。このセンター発の研究が、イノベーションを導く最初のステップを築いています。

附属学校の 名物先生登場！ 14

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。



今回の先生

Profile

寺西 真人 教諭
筑波大学附属視覚特別支援学校

東京都出身。東京教育大学附属小・中・高を経て、日本体育大学卒業後、附属高等学校 体育科の非常勤を5年経て、平成元年に本校に着任。平成24年度には「筑波大学職員表彰」を受賞し、現在に至る。視覚障がい者のスポーツで、水泳の他に、ゴールボールを指導中。現在、男子「チーム附属」は、日本選手権ゴールボール大会3連覇中で、現在のゴールボール日本代表チーム(男女)に多くの附属出身の生徒が含まれている。2020 東京五輪・パラリンピックに向けて選手育成中。

中央に張られたネットが低いことを除けば、どこにでもありそうな学校の体育館。これから始まるのは「フロアバレーボール」という競技だ。ボールを床に転がして行うバレーボール、視覚障がい者のために6人制バレーボールをアレンジしたスポーツで、ボールはネットの下を通し、ボールが転がったり跳ねたりする音を頼りに、平面上でゲームが展開する。そう聞くと、動きの鈍そうなイメージを持つかもしれないが、なかなかどうして、ボールを打つ音や転がるスピードは迫力満点だ。

これは高校1年生の体育の授業。授業は、生徒の号令による準備運動のラジオ体操から始まる。その後は2人1組

での柔軟運動や逆立ち。体が温まったところでフロアバレーの練習開始だ。男子と女子、さらに前衛と後衛に分かれてボールを打ち、打ち返す。視覚に障がいはあるとしても、体格はごく普通の高校生。力いっぱい打たれたボールが向かって来ると思わず逃げてしまう勢いだ。何度も繰り返すうちに、スピードは上がり、コントロールも正確さを増していく。生徒たちの真剣度もアップする。

授業を指導しているのは4人の体育教諭。その1人が寺西先生だ。16人の生徒は障がいのレベルも様々で、体の位置や向きを少し変えるだけでも、手で支えたり声をかけるなど、それぞれに応



じた補助が必要になる。言葉での説明も丁寧に行わなければ正しく体を動かすことができない。例えば、「手を伸ばす」ではなく「手を前に伸ばす」、「腰を落とす」ではなく「膝を90度曲げる」。簡単な動作でも、それを言葉だけで表すとなるととても難しい。もともとは話下手だった寺西先生も、この仕事に就いてからずいぶんおしゃべりになったそうだ。

寺西先生の専門は水泳。パラリンピックのメダリストを何人も育て、日本代表チームの指導も担う名コーチだ。水泳は、視覚障がい者向けのスポーツの中で人気の高い種目で、附属視覚特別支援学校に赴任後、体育の授業にも取り入れ、水泳部（現在は水泳同好会）も立ち上げた。授業に部活、選手育成、遠征と、休日返上で忙しい毎日過ごしている。

車椅子やスキー板など、道具の力も大きな要素となること多い障がい者向けスポーツの中で、水泳は体一つで勝負する種目だ。だから特別な練習方法はない。ただ、見えない状態で真っすぐ泳ぐのは難しい。曲がって泳ぐと硬いコースロープにぶつかって痛いし、泳ぐ距離が長くなってしまふ。水面やプール壁に全力で向かっていく飛び込みやターンは恐怖心との戦いでもある。そういったことを一つ一つ克服し、時間を掛けて根気よくフォームやタイミングを体に覚えこませていく。授業の経験が選手指導にも生かされる。その逆もちろんある。授業も競技も、発想とチャレンジが何より大切だ。



そんなハイレベルな練習が行われるプールは、というと、校内にあるのはたった12mのとても小さなものだ。深さも1mと、プールとしてはかなり貧弱な仕様。実はこれは防火用水の水槽で、もちろん屋根もなく、夏の間しか使うことができない。授業は仕方ないが、練習には校外にある25mプールまで行かなくてはならない。授業が終わってから生徒たちを引率してプールへ行き、練習を終えて寄宿舎へ送り届ける、そこまでが寺西先生の部活動だ。練習には大学生や社会人になった卒業生も加わる。学校の仕事と選手の指導の両立は大変だが、生徒が選手になって成長していく姿を見るのは本当に楽しい。

選手たちが寺西先生を頼りにする理由がもう一つある。「タッパー」としての役割だ。タッパーは、長い棒の先につけたスポンジなどで、プールサイドから選手の頭や背中を叩いて（タッピング）ターンのタイミングを知らせる人。わずか数センチのタッピング位置のずれが0.01秒差

で勝負を決めることもある。試合で負けたときの口惜しさは選手と同じだ。選手によって最適なタッピングのタイミングや力加減は異なる。それらをすべて把握しないとタッパーは務まらない。選手と一緒に表彰台に上がることはないが、視覚障がい者の競泳はタッパーがいてこそその競技なのだ。

水泳に限らず、障がい者スポーツに対する注目度はまだまだ低く、パラリンピックもメダルが取れなければ話題にならないのが現実。トップレベルの選手育成でも、人材や経済的なサポートなどが不十分だと感じることも多い。だからこそ優秀な選手を1人でも多く育て、競技会出場の機会を増やすことが重要だ。春から秋にかけては国内外の大会が続く。遠征に出るときは他の先生たちに授業をカバーしてもらわなくてはならず、迷惑をかけてしまうが、周囲の理解が支えてくれている。

そういった授業以外の活動のことを、生徒に話すことはあまりないが、多くの生徒が運動をしたいと相談にやってくる。「障がいがあってもできることはたくさんあります。何ができるか、どうすればできるか、探せば必ず見つかります」。自分の健康管理ができていないと嘆きつつも、どこまでも明るく前向きな寺西先生のチャレンジはこれからも続く。



防火用水を転用したプール



手づくりのタッピング棒



星 祐子 副校長

真っ黒に日焼けして凄みのある外見に熱いハートを持った寺西教諭、体育科教諭皆でデッキブラシを手にプール掃除をしながら、「この12mプール、どうにかなりませんかね。せめて25m…」と口癖になってきた一言。体育の授業はもちろん、部活動や卒業生支援と時間を惜しむことなくブラインドスポーツ指導に情熱をかける毎日です。そして、国際大会等へ出掛けることも多く、その間は体育科教諭を中心に穴を埋め

てもらっていることにも感謝を口にしていきます。パラリンピックを展望し、障がいがあっても自分の中には多くの可能性があることに気付いてもらいたいし、挑戦することの大切さを伝えたい、達成した時の喜びや感動も味わってほしい、挫折も乗り越えてほしい、とたくさん思いを抱いて、「JAPAN」の文字を付けたポロシャツ姿で指導にあたる日々です。



動物を扱う唯一のオリンピック種目 ～その難しさと面白さ～

東大通りを馬が横断する光景を目にしたことがありますか?あるいは、虹の広場で乗馬している姿を?…馬術部では、馬を外環境に慣れさせるため、ごくたまに、一の矢学生宿舎の東側にある筑波大学馬場を出て、東大通りを横断し、虹の広場で外乗(がいじょう)する。ただし、この貴重なシーンを目撃するには、早起きが必須。馬術部の活動時間は、月曜～土曜の朝5時半～8時半だ。

馬術部の馬は4歳～20歳の11頭。毎朝、1頭あたり1時間くらい運動させる。運動後は、馬にブラシ掛けをして、餌をつける。昼、夕方、夜にも当番制で世話や健康確認。馬は音に敏感なので、台風の日などは、部員が泊り込んで世話をすることもあるという。動物を扱う唯一のオリンピック種目である馬術には、他のスポーツにはない苦労があり、喜びがある。



本学の馬術部は、オリンピック種目と同じ、「馬場馬術」「障害飛越」「総合馬術競技」に取り組んでいる。「馬場馬術」は、決められた範囲内で、規定の運動科目を、どれだけ正確に美しくできるか競う競技で、初心者も、まずこの練習から始める。「障害飛越」は1m前後の障害物を飛越し、正確さとタイムを競う競技。試合開始15分前にコースを下見し、馬に何歩目で踏み切らせるか、ハードルとハードルは何歩にさせるかななどの作戦を練って頭にたたき込み、試合に臨む。非常に頭を使う競技だ。「総合馬術競技」はこの2競技に、森や林の中を、池や丸太の障害物を乗り越えながら疾走するクロスカントリー競技を加えて、3競技の合計得点で競う。

部員は29人。大学から乗馬を始めた人がほとんどだが、4年生の時には、経験者と対等に渡り合えるようになって、関東学生賞典に出場、全日本を目指すことを目標としている。

担当馬制で、上級生が担当の馬の世話、騎乗、調教を行い、下級生は、副担当として補佐をする。馬の適性によって練習している競技が違い、「総合馬術競技」に出場できる総合馬は2頭。どの馬を担当するかは、本人の希望する競技などを参考に、上級生同士の話し合いで決める。



人馬一体となってやるスポーツなので、担当の馬とのコミュニケーションがとても重要だ。馬はとても賢く、自分の担当が誰かを理解する。「他の部員を囁んだりする気性の荒い馬を担当していますが、私の指示には素直に従うようになりました」と、主将の実広亜希子さん(生物資源学類4年)。しかし、馬は非常に敏感なので、練習ではうまくコミュニケーションが取れていても、試合会場の雰囲気や驚き、暴れ出すこともあり、普段通りに競技できないこともしばしば。そんな時、騎乗している人が慌てるので、常に冷静に対応する必要がある。精神面が鍛えられるスポーツといわれるゆえんだ。

「馬を自分の思い通りに動かすためには、足の挟み具合を加減したり、靴のかかとの部分に装着した拍車で合図を送ったり、手綱やムチを使ったり。たくさんの方のアドバイスを、同時にやらなければならないところが難しい。監督やコーチに技術を指導してもらっていますが、自分の意思をどうすればよりきちんと馬に伝える

ことができるか、自分なりの工夫も常に考えています」と実広さん。

今までで一番嬉しかったのは、昨年、北関東学生馬術大会で団体優勝し、自身も馬場馬術で3位に入賞したことだという。同部は、一昨年に、関東学生2部に初昇格。その座を維持している。

夏休みには、馬の避暑を兼ねて、馬全頭を連れて、山梨県の小淵沢で1~2ヶ月に渡る長期合宿を行う馬術部。OBを含め、結束力の固さが自慢だ。



Information

前身の師範学校から140年を越える歴史を有し、オリンピックの金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、ぜひ、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】 <http://www.sports.tsukuba.ac.jp/>
【筑波大学体育会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

ラグビー部

■ 第15回東日本大学セブンス **優勝(3連覇)**

柔道部

■ 平成26年度全日本柔道選抜体重別選手権大会

【男子81^{kg}級】**優勝** 永瀬貴規(体育3)

■ ロシアジュニア国際柔道大会 【男子66^{kg}級】**優勝** 末木貴将(体育1)

■ 関東学生柔道優勝大会 【男子1部】**優勝** 【女子5人制】**優勝**

世界柔道選手権大会 8/25~8/31 ロシア・チェリャピンスク

関東学生柔道体重別選手権大会 8/30、31 埼玉県立武道館

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 9/6、7 埼玉県立武道館

アジア競技大会 9/20~9/23 韓国・仁川

全日本学生柔道体重別選手権大会 9/27、28 日本武道館

ハンドボール部

■ 2014年関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦

【女子1部】**優勝(28回目)** 【最優秀選手】水田亜莉沙(体育4)

【優秀選手】林るつな(体育4)・関澤あすか(体育3)・岩崎成美(体育2)

【特別賞】加納明帆(体育4) 【最優秀新人賞】田村美沙紀(体育2)

【男子1部】準優勝 【優秀選手】加藤芳規(体育4)・谷之木陵(体育4)

陸上競技部

■ 第93回関東学生陸上競技対校選手権大会

男子1部／**総合優勝(22年連続24回目)**

男子3部／【400m】**第1位** 近藤崇裕(院1)／【110mH】**第1位** 大室秀樹(院2)

【走高跳】**第1位** 衛藤昂(院2)／【三段跳】**第1位** 松下翔一(3年制博士1)

【ハンマー投】**第1位** 保坂雄志郎(院1)

女子1部／【円盤投】**第1位** 知念莉子(体育3)

【ハンマー投】**第1位** 勝山眸美(体育2) **関東学生新記録**

【七種競技】**第1位** 松原恵(体育2)

女子2部／【3000mSC】**第1位** 中村真悠子(院2) **大会新記録**

【走幅跳】**第1位** 中野瞳(院2)

■ 第98回日本陸上競技選手権大会

男子／【走高跳】**第1位** 衛藤昂／【走幅跳】**第1位** 嶺村鴻汰(体育4)

女子／【3000mSC】**第2位** 中村真悠子 **日本学生新記録** **日本歴代3位タイ**

第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会 7/22~7/27 ユージーン(アメリカ)

第83回日本学生陸上競技対校選手権大会 9/5~9/7 埼玉・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

第54回実業団・学生対抗陸上競技大会 9/12 神奈川・小田原市城山陸上競技場

第17回アジア競技大会 9/27~10/3 韓国(仁川)

第20回関東大学女子駅伝対校選手権大会 9/28 印西市千葉ニュータウン周回コース

弓道部

■ 関東学生弓道選手権春季トーナメント大会

【女子団体】**優勝** 【女子個人】**優勝** 今林史佳(体育2)

体操競技部

■ 第53回NHK杯体操競技大会

総合3位 井上和佳奈(体育1) **第45回世界体操競技選手権大会の日本代表決定**

体操部

■ 7th Team World Cup Wheel Gymnastics 2014

【日本】**団体優勝** 堀口文(院2)・松浦佑希(体育4)・高橋靖彦(H25修了)

全日本学生ラート競技選手権2014 8/23、24 つくば市桜総合体育館

バスケットボール部

■ 第63回関東大学バスケットボール選手権大会

【男子】準優勝 【敢闘賞】笹山貴哉(体育4) 【優秀選手賞】坂東拓(体育4)

第90回関東大学バスケットボールリーグ戦 9/1~11/2 国立代々木第二体育館他

世界初の“缶サット”ミッションに挑戦!



日本最大規模の学生・社会人によるロケット打ち上げと小型衛星制御のアマチュア大会「能代宇宙イベント」(秋田県能代市)でのミッション達成を目指して活動している宇宙技術プロジェクト(Space TEchnology Project:略称STEP)。

STEPが製作しているのは、エンジンに固体の燃料と液体の酸化剤を使用した全長170cm程の「ハイブリッドロケット」と、そのロケットに搭載する「缶サット」と呼ぶ小型模擬衛星。ロケット自体とそのデータを無事に回収すること、缶サットのミッションを遂行するという2つの目標を掲げ、8月の大会に向け、「プロジェクト体制」で製作に取り組んでいる。ただ製作するだけでなく、「ものづくりをチームで行う上で敷かれるプロジェクト体制の運用を経験すること」も活動の目的で、25人のメンバーが5つの班に分かれて同時進行で作業を進めているのだ。

5つの班とは、エンジンを正確に点火し、ロケットを安全に飛ばすことを目指すエンジン班、ロケットの機体をデザイン・設計・製作する機体班、缶サットを放出したり、ロケットを軟着陸させるためのパラシュートを展開させる機構を製作する分離班、GPSデータや加速度データなどの各種データを取得するための回路や缶サットに搭載する回路の開発をする電装班、缶サットの製作を行う衛星班。どこか1つの班が遅れると全てが遅れてしまうので、スケジュールを管理するプロジェクト・マネージャーの責任は重大だ。

Information

筑波大学には、約40の文化系サークルが所属する「文化系サークル連合会(文サ連)」と、約30の芸術系サークルが所属する「芸術系サークル連合会(芸サ連)」という、大学公認の学生組織があります。

このコーナーでは、こうした文化系・芸術系サークルによる公演や、学園祭などのイベント情報、各種表彰・コンテスト結果などをお知らせします。(詳細は下記ホームページをご参照ください)

【文化系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

【芸術系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>



本学虹の広場で行ったロケット燃焼試験の様子



週1回の全体ミーティングで進捗状況を確認するが、「メールでのやり取りやミーティングだけでは、細かな状況までつかめない。日々、各班と直にコミュニケーションを取ることを心掛け、スムーズにプロジェクトが進むように工夫している」と大井祐介プロジェクト・リーダー（工学システム学類3年）。このプロジェクト体制の徹底運用により、大会直前に徹夜で突貫作業といった、ありがちな惨状は起こらないという。

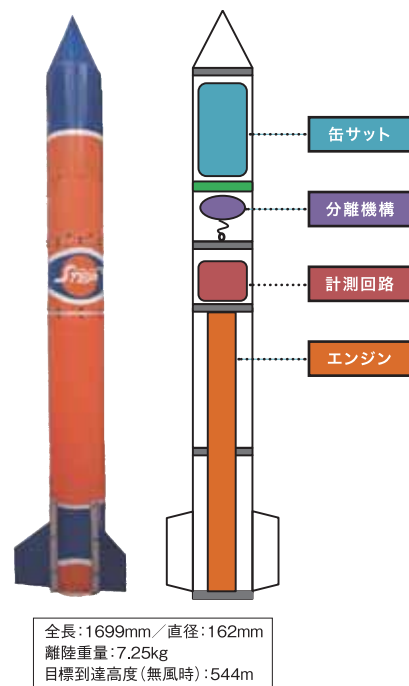
そして、安全な点火のための配管練習を20回以上重ねるなど、徹底的に安全性を重視した綿密な計画が、プロジェクトの確実な成功に結び付く。「能代宇宙イベント」において、年によっては、半数近くの団体が失敗することもあるが、STEPは5年連続、9機連続で打ち上げおよび機体の回収に成功。昨年は、プロジェクト体制と打ち上げの際のチームワークが評価され、「MHIアワード賞」（参加したハイブリッドロケット団体における最優秀賞相当）を授与された。

STEPは、慎重なだけでなく、果敢なる挑戦者でもある。前回は、海に向かって打ち上げるロケット（図①）に、同イベント初となる着水式缶サットを搭載し、見事に成功させた。今回は、海打ち上げ、陸打ち上げ、どちらのロケットにもさらに挑戦的な取り組みをしている。

陸打ち上げのロケットでは、今までバネの力でパラシュートを分離させてきたところを、水ロケットで分離させる計画だ。海打ち上げのロケットでは、直径15cm・高さ23cmの筒の中に、缶サットを2つ搭載。1つは、上空で分離させ、もう1つは、ロケットが着水した後に分離させて、どちらもあらかじめ設定したゴール地点まで自力で戻ってくるという世界初のミッションを計画している。

本年度の「能代宇宙イベント」は、8月15日～22日に開催予定。インターネット中継も行われるので、ぜひ応援してほしい。（詳細は <http://www.noshiro-space-event.org/> 参照）

STEPの活動について、秦健太郎代表（応用理工学類3年）は、「昨年3月には、能代イベントの他にも、伊豆大島でのロケット打ち上げ実験に初参加。今後とも参加する予定です。広報・宣伝にも力



図①「STEP09」の構造(2013年海打ち上げ)

を入れて、より一層活動の幅を広げていきます。理工系の学生だけでなく、プログラミングで力になってもらえる情報系や、広報活動で活躍してくれる文系や芸術系の学生の参加も大歓迎。打ち上げ直前や本番の時はビシッと締めるけれど、普段はワイワイとても楽しくやります」とアピール。STEPのホームページで公開している能代宇宙イベントPV (<http://www.tsukuba-step.org/movie.html>) を観るとその楽しさがよく伝わってくる。



ピアノ愛好会

サマーコンサート

7/17 (ノバホール) 開演: 18:30

劇団竹蜻蛉

第175回 新人公演

7/12(1B308) 開演: 19:00 7/13 開演: 12:45/16:30

ときめき太鼓塾

土浦キララまつり

8/2 (土浦駅前)

ジャグリングサークルSheep

まつりつくば(バルーンアート販売)

8/30、31 (エキスポセンター前・つくば駅前)

図画団

第六回図画団展

7/7～7/11 (大学会館別館ホール) 9:00～18:30(最終日12:30まで)

混声合唱団

サマーコンサート

7/19 (アルスホール) 開演: 19:30

E.S.S.(English Speaking Society) **結果**

JNDT(Japan National Debate Tournament)

優勝 当流谷啓一(工学システム学類3年)
橋本英奈(心理学類3年)



アルガンツリー(ヤギに実を食べさせて種を集める)



スパイス売場

ハリラスープ



伝統的衣装 カフタン



ほどの料金を払って、巨大なオープンで鍋ごと蒸し煮します。そして、30分〜1時間後に受け取りに行き、家に持ち帰って食べるのです。もちろん、旅行者はレストランで食べることができます。

日本でも人気のタジン鍋は、マラケシュでも食べることができますが、アガディールが発祥の地なので、本当においしいものが食べたいなら、アガディールで食べた方がいいと思います。アガディールの「タジン」は、七輪のようなものに小石を入れて熱し、その上にジャガイモやレーズン、トマト、玉ねぎ、鶏肉か牛肉などを入れたタジン鍋を乗せて、じっくり時間をかけて作ります。

ラマダン(断食)の日没後やラマダン明けには、「ハリラ」というトマトベースのスープが欠かせません。

アラビア語・ベルベル語・フランス語は学校で。英語は独学！

モロッコの公用語は、アラビア語とベルベル語です。第1外国語は、地方によって違い、北の方はスペイン語、南の方はフランス語。植民地時代に統治していた国によります。

アガディールでは、小学校1年生からアラビア語、ベルベル語、フランス語の授業があります。高校になると、数学や物理の授業がフランス語になり、大学の授業は全てフランス語です。

私は、高校を卒業して1年間経済の専門学校で学び、昨年、モロッコで筑波大学の筆記試験や面接を英語で受けて入学しました。モロッコでは、アメリカのポップカルチャーや映画が人気で、若い人たちは、フラ

ンス語より英語の方が面白いと思っっています。私のように、学校以外で個人的に英語を勉強する人が多く、ほとんどの若者は英語を話すことができます。

モロッココスメとハンマム

筑波大学に入学したのは、植物やデザイティフィケーション(砂漠化)の研究がしたいから。北アフリカでは、砂漠化が深刻な問題になっています。

でも、外国からの観光客は砂漠が好きです。サハラ砂漠の入り口、ワルザザートは、映画のロケ地としても有名で、多くの観光客が訪れます。砂漠スキーもできますよ。

ワルザザートの近くにあるダダス谷は、モロッコ産コスメティックスとして有名な「ローズウオーター」の生産地です。4月末〜5月初めに、ピンクのバラ、ダマスクローズが二面に咲きます。

「ローズウオーター」以外にも、世界でモロッコだけに育つアルガンツリーの種の核から採る「アルガンオイル」や、モロッコでしか採れない、洗浄力と保湿力のある天然の粘土「ガストールクレイ」など、モロッコ独自のコスメティック原料がたくさんあります。

モロッコには、日本の銭湯のように、「ハンマム」と呼ばれるスチームサウナがあちこちにあって、週に1度は行っていました。女性たちは、お気に入りのコスメティックスを持ち込んで、おしゃべりを楽しみながら、たつぷり時間をかけて、肌や髪の手入れをします。最近、モロッコのコスメティックスを使ってエステをしてくれる高級ハンマムも増えていて、観光客に人気があるみたいです。



アガディール



青い街並で有名なシャウエン



アトラス山脈



マラケシュ

Homeland

本学には、80を超える国から、約2千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。

モロッコ王国



メリエム・ベーリ

Meryem Behri さん

所属:生命環境学群生物資源学類 2年
趣味:読書・映画鑑賞



人気リゾート地アガディール

私はモロッコのアガディールから来ました。アガディールの年間気温は20度〜39度くらい。一年中泳げるきれいな海とナイトライフが有名で、ヨーロッパからもたくさん観光客が訪れるリゾート地です。クラブがたくさんあって、毎晩盛り上がりがあります。お酒も飲みますよ。あまりイスラム教に縛られず、のんびり、陽気に人生を楽しんでいる人が多いです。

アガディールに行ったら、「朝はビーチ、昼はスヌークで新鮮な魚料理を食べてちよっとお買い物。昼寝をして、夜はクラブ」という

のがお勧めの過ごし方。モロッコのあちこちにあるスヌークは、食べ物の屋台や野菜、果物、パン、スパイス、服、雑貨、家具、本:何でも売っている市場です。

毎日がお祭りの ジャマ・エル・フナ広場

アガディールからよく遊びに行っていたのはマラケシュ。モロッコで一番人気がある観光地で、たくさんホテルがあり、歴史的な建造物が並ぶ世界遺産のメディナ(旧市街)もあれば、アトラス山脈にあるスキー場に足を伸ばすこともできます。特にジャマ・エル・フナ広場は、名物の絞られたオレンジジュースの屋台やレストランの他、手相を見る占師やヘナという染料でボディペインティングするアーティスト、蛇使いやサル使い、ダンサーなどの大道芸人たちで活気に溢れていて、何度行っても楽しい所です。賑わうのは夕方6時頃から、午前3時頃まで毎日がお祭りのよう。この空間そのものが、ユネスコ無形文化遺産になっています。マラケシュの夏は、50度まで上がりますから、7月〜9月は避けた方がいいですよ。

「タンジーヤ」のための オープン屋さん

マラケシュで有名な料理といえば「タンジーヤ」。マラケシュの人々は、タンジーヤという壺形の土鍋に、ヤギなどの肉や豆、レーズン、いろいろなスパイス、水などを入れ、「フラン」(オープンの意)と呼ぶ店に持っていき、日本円で100円〜150円



ジャマ・エル・フナ広場



ベスティー売場



マラケシュのスヌーク

地域貢献

科学技術週間 キッズ・ユニバーシティ

毎年4月18日(発明の日)を含む一週間は科学技術週間として、科学技術に親しむためのイベントが全国各地で行われます。筑波大学でも4月19日、小中学生を対象に、科学の面白さを体験してもらうとともに、大学の魅力を感じてもらうイベント「キッズ・ユニバーシティ」を開催しました。併せて、各学群・学類、研究科、研究室、センターなどでも、施設公開や実験教室などが行われました。

キッズ・ユニバーシティの企画は今年で3回目。参加者には、筑波大学入学まで有効な学生証が配布され、大学生気分になって図書館や学食も利用できます。当日は、特別授業、科学実験、観察ツアー、ワークショップ、スタンプラリーなど、総合大学ならではの多彩な催しが実施され、キャンパスは大勢の小さな1日筑波大生でにぎわいました。



〔特別授業〕

睡眠のミステリー／地震・崩壊シミュレーションの世界

いつも筑波大生が授業を受けている階段教室で、本学の教員が先端の研究成果をもとに授業を行いました。少し難しい内容もありましたが、それぞれ工夫を凝らした授業に、真剣な表情で聞き入りました。授業後の質問タイムでは素朴ながらも鋭い質問が飛び出し、講師がタジタジになる一場面もありました。



〔ワークショップ〕 世界遺産を科学しよう

アンコールワット遺跡の発掘調査を紹介しながら、様々な測量技術について学びました。歩幅や腕など自分の体を使った昔ながらの測り方から最新の3Dレーザー測量装置まで、長さや距離を測る方法を親子で体験し、古代の建築や都市の姿を解明する研究の一端を味わいました。



〔特別キャンパスツアー〕 花と虫の観察会

教員と大学院生のガイドで、捕虫網を片手にキャンパス内を探検し、咲き始めた草花や芝生に隠れた昆虫を観察しました。捕まえた昆虫について、図鑑と見比べて種類や名前を確かめてみると、モンシロチョウ、モンキチョウ、ベニシジミ、ナナホシテントウ、カナヘビなどの他、ツチハンミョウという珍しい虫も。好天にも恵まれ、大人も子供も駆け回り、自然豊かで広々とした本学キャンパスを満喫しました。



スタンプラリー

キャンパス内のイベント会場を巡るスタンプラリー。スタンプ3つで参加できるジャンケン大会にはあふれんばかりの子供たちが集まりました。実験キットや工作セットなどの豪華科学グッズや筑波大グッズが当たるとあって、ジャンケン大会は大盛況。お目当てのグッズを狙って、勝敗に一喜一憂しました。





国際植物の日 筑波大学みどり散歩

5月18日は「国際植物の日～世界のみんなで植物のたいせつさを考える日」です。これにちなみ、この日、本学の総合研究棟Aにて、「筑波大学みどり散歩」を実施しました。2回目となる今年は、国立科学博物館筑波実験植物園と水戸市植物公園でも同時開催するジョイントイベントです。この前日には菅平高原実験センターでも、公開講座が行われました。

当日は、本学生命環境系で実施されている研究成果を紹介する展示・講演のほか、植物素材を用いた工作教室や、キャンパス内の植物と環境を観察するガイドツアー、農林技術センターの野菜や草花の直売などが行われました。また、つくば市内の企業やガールスカウトなどの協力による活動報告、食糧生産に関する展示・実演などもあり、会場は植物や食糧の話題でいっぱいの1日でした。

植物観察ガイドツアー

昨年に引き続き、今回も大好評だった植物観察ガイドツアー。汗ばむほどの陽気の中で、新緑の美しいキャンパスを散策しながら花や木々を観察し、花びらや葉の特徴などの解説に耳を傾けました。普段は見逃してしまう小さな草花にもじっくりと目を向ける機会となりました。初めての試みとして、構内に再生したアカマツ林の奥に足を踏み入れる体験をしました。



ポスター展示・実演

トマトの育種や健康食品の開発、植物の病気、森林保護、農作物への放射線の影響など、本学生命環境系で行われている研究の成果を紹介する展示や、植物の色素を使った科学実験のコーナーが設けられました。教員や学生による説明・実演などもあり、訪れた人々は興味深そうに足を止めていました。



菅平高原実験センター 公開講座

「高原の植物観察～植物が育む多様な生きものたちを探してみよう」と題した公開講座を実施しました。ミニ講義と、樹木園を巡る観察会を通して、植物と動物や微生物との関わりを観察しました。実験用の器具や苗圃など、センターで行われている研究内容にも触れながら、菅平の自然を満喫するにぎやかな講座となりました。



平成26年度入学式を挙行

4月7日に、大学会館講堂において、平成26年度学群・理療科教員養成施設の入学式並びに大学院入学式を挙行しました。学群2,217人、編入学生124人および理療科教員養成施設入学生19人、大学院2,417人が新たな一歩を踏み出しました。

大学院の人間総合科学研究科には、社会人特別入試で、元プロ野球選手の工藤公康さん、吉井理人さん、仁志敏久

さんが入学。入学式後に開かれた記者会見で、それぞれの決意を述べました。



(左から) 吉井理人さん、工藤公康さん、仁志敏久さん

「くるみん」マークを取得

本学は、厚生労働省茨城労働局より、労働者の仕事と子育ての両立を積極的に支援する「基準適合一般事業主」(子育てサポート企業)に認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。

本学は、次世代育成支援対策推進法に基づき、第3期一般事業主行動計画(平成22年4月～平成26年1月)を策定し、子どもの看護休暇の取得要件について法律を上回る小学校3年生までに拡大したほか、時間外勤務縮減のため、時間外勤務が一定時間を超えた

職員とその管理監督者に対し注意メールを自動配信するシステムを導入するなどの取り組みを進めてきました。現在は第4期一般事業主行動計画

(平成26年1月～平成27年3月)に基づき、これまでに導入してきた出産や育児に関する制度の周知などに取り組んでいます。



茨城労働局長から認定書を受け取る東照雄副学長(写真右)

「筑波クリエイティブ・キャンプ」開催を発表



(左から) 永田恭介学長、森川亮氏、吉田和正氏

本学は5月15日、東京キャンパスで記者会見を開き、永田恭介学長が「筑波クリエイティブ・キャンプ」の開催を発表しました。同企画は、つくばを“日本のシリコンバレーに”を合言葉に、本学出身の経営者が、起業を目指す本学学群生・大学院生100人を対象に、7月18日～20日の3日間にわたって直接指導するサマーキャンプです。講師として、森川亮氏(LINE株式会社代表取締役社長)、吉田和正氏(前インテル株式会社代表取締役社長)、山海嘉之教授(サイバーダイナミクス株式会社創業者兼CEO)ら15人ほどが登壇予定です。詳しい内容については本学ホームページ[<http://www.tsukuba.ac.jp/event/e201406191600.html>]を参照してください。



写真: AP/アフロ



写真: 平野敬久/アフロ

猶本光選手が AFC女子アジアカップでの活躍を報告

5月14～25日に、AFC女子アジアカップベトナム2014が開催され、なでしこジャパン(サッカー女子日本代表)が初優勝を成し遂げました。

6月13日には、この大会で、なでしこ

ジャパンに初めて選出された猶本光選手(体育専門学群3年)が、永田恭介学長および阿江通良副学長、清水一彦副学長、東照雄副学長を表敬訪問して、今大会の成績を報告しました。

こんなに違うウチとソト 〈筑波大学イメージ調査〉



国際性と学際性、どちらも筑波大学が開学以来掲げてきた理念だ。キャンパスを歩けば多くの外国人留学生が行き交い、自分の研究テーマに必要とあらば、どの分野の講義にもアクセス可能。国際性も学際性も筑波大学では日常的な光景だ。

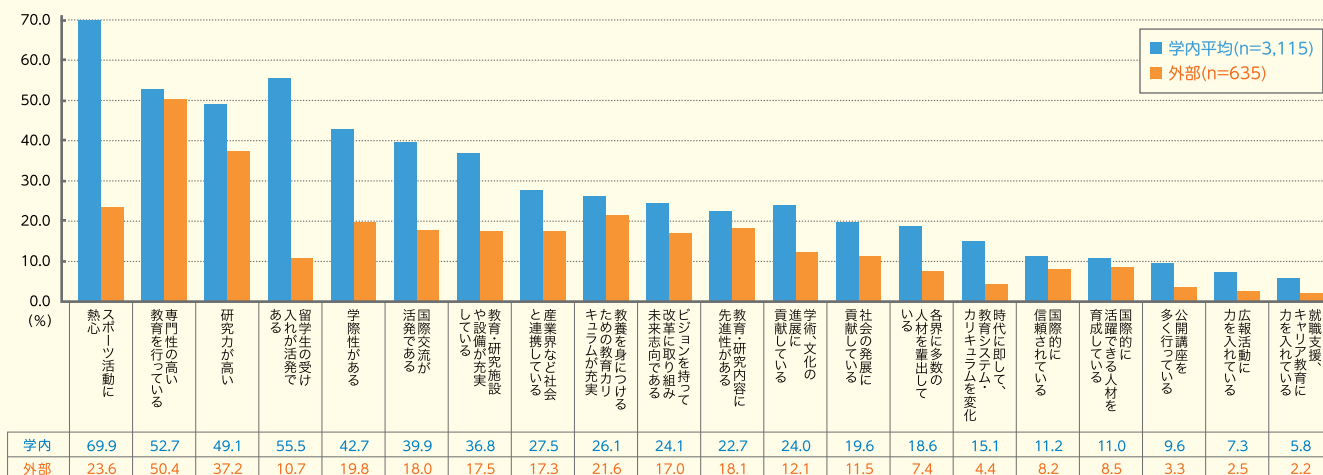
昨年度、筑波大学では、日経BPコンサルティング社の協力の下、独自に「筑波大学イメージ調査」を行った。これからの大学を考えるうえで、外部からどのように捉えられているかを客観的に把握することは、重要な指針となるはずだ。今号から数回にわたり、この調査結果から目立ったトピックをお伝えしていきたい。

調査では、大学のイメージを20項目ほど列記し、それぞれにイメージが高いものを選んでもらう。対象は、在学生や教職員、父母、卒業生、

外部。結果、「専門性の高い教育」、「研究力」の項目では、内外共に高いイメージを保っていることがわかる。反面、実像が外部にあまり知られていない項目が、「留学生の受け入れが活発」、「学際性がある」、「国際交流が活発」、「スポーツ活動に熱心」。筑波大をよく知るインナーとしてはなぜ? という結果も。

国内屈指の留学生数、オリンピック選手を多数輩出しているという筑波大の実像は、意外に知られていないようだ。企業も大学もイメージ作りは総力戦。まずはここぞというスポーツ試合には、留学生を誘って、在校生も卒業生も応援に行き、会場をフューチャーブルーで埋めて存在感を示そうではないか! (本誌P19 Information 参照)

—— 客員教授・広報室コンサルタント 亀谷 賢 ——



*イメージ項目名は、煩雑さを軽減するため一部省略しています。 ※「学内」は、在学生(n=1,002)、教職員(n=749)、父母(n=896)、卒業生(n=468)の4調査の平均値です。

受賞 Awards and Prizes

紫綬褒章を受章

関口章教授(数理物質系)は、永年にわたって化学の教育・研究に務め、ケイ素などの高周期有機元素化学分野の研究における功績により、2014年春の褒章で、紫綬褒章を受章されました。紫

綬褒章は、「学術、芸術上の発明、改良、創作、スポーツに関して事績の著しい方」に贈られるもので、2014年4月29日付で受章し、伝達式が5月16日に行なわれました。



主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
公益財団法人トラスト60調査・研究助成金	徳本穰教授(ビジネスサイエンス系)	_____
第59回日本金属学会賞	宮崎修一教授(数理物質系)	_____
瑞宝中綬章正四位	鎌田博教授(生命環境系 遺伝子実験センター長)	_____
第12回林業経済学会賞(学術賞)	立花敏准教授(生命環境系)	_____
平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門	青木愼也客員教授(数理物質系 計算科学研究センター) 石井理修准教授(数理物質系 計算科学研究センター)	_____
平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	山本洋平准教授(数理物質系)	_____
	丹羽隆介准教授(生命環境系)	
	中野裕昭助教(生命環境系 下田臨海実験センター)	
	石山智明研究員(計算科学研究センター)	
日本放射線技術学会 平成25年度 技術奨励賞(放射線防護分野)	磯辺智範准教授(医学医療系)	_____
23rd Annual Meeting of the Section of Magnetic Resonance Technologists (SMRT) 1st Place Research Focus Award		
船井研究奨励賞	都甲薫助教(数理物質系)	_____
12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Archimedes Award	角川隆明特任助教(体育系)	_____
GEOSPATIAL WORLD EXCELLENCE AWARDS 2014	村山祐司教授(生命環境系) コクルウイン前研究員(生命環境系)	_____

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
10th Annual Meeting of European Society for Dermato-Oncology, Poster award	藤澤康弘講師(医学医療系)	_____
第9回電子情報通信学会通信ソサイエティ論文賞(優秀論文賞)	西川博昭教授(システム情報系) 三宮秀次助教(システム情報系)	_____
科学技術振興機構さがけ 「太陽光と光電変換機能」研究領域 総括賞	櫻井岳暁准教授(数理物質系)	_____
平成25年度日本造園学会賞(技術部門)	鈴木雅和教授(芸術系)	_____
一般社団法人 日本機械学会 ロボティクスメカトロニクス部門 学術業績賞	山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)	_____
日本統計学会 第3回スポーツデータ解析コンペティション 特別賞(データスタジアム賞)	西嶋尚彦教授(体育系)	_____
	徐広孝(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期3年)	西嶋尚彦教授(体育系)
	横尾智治(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期1年)	
	安藤梢(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期3年)	
	熊谷紗希(体育専門学群4年)	
猶本光(体育専門学群2年)		
日本学術振興会 育志賞	平安座依子 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 一貫制博士3年)	島野仁教授(医学医療系)
日本機械学会関東支部 第53回学生員卒業研究発表講演会 Best Presentation Award	加藤由幹(理工学群 工学システム学類4年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系)
	綿引壮真(理工学群 工学システム学類4年)	
	齋藤慎平(理工学群 工学システム学類4年)	
2013年 応用物理学会秋季学術講演会 「第35回応用物理学会講演奨励賞」	沼田諒平 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士前期2年)	末益崇教授(数理物質系) 都甲薫助教(数理物質系)
17th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International, Young Investigator Award	孫略(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 一貫制博士3年)	坪井康次教授 (医学医療系 陽子線医学利用研究センター)
平成25年度日本原子力学会フェロー賞	堀口直樹 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期2年)	吉田啓之連携大学院教授 阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系)
日本家禽学会優秀発表賞(日本家禽学会2014年度春季大会)	中島友紀 (生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻 博士後期3年)	田島淳史教授 (生命環境系 農林技術センター長)
第70回日本放射線技術学会総会学術大会 優秀学生賞 CyPos賞銅賞	孫略(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 一貫制博士3年)	坪井康次教授 (医学医療系 陽子線医学利用研究センター)

※所属、職名、学年は受賞時

システム情報系准教授
山際伸一さん

冬になるとそわそわします。スキーの季節到来。雪山という過酷な環境下で、体を動かして楽しむという、この一見、矛盾したスポーツが大好きです。今年、研



究成果の検証もあり、手稲に通いました。今までで最高のスキーは、ヨーロッパに住んでいた頃、アルプスの氷河スキーです。標高3300mで酸欠で荒い息を抑えつつ、自分より高いものがない絶景を目に焼き付け、格別の時間が過ごせました。筑波に戻って3年目。環境にも慣れ始めてきたので今年の冬はスケジュールをうまくとって、いろんなゲレンデを制覇しようと、夏が到来してきているにもかかわらず考えている今日この頃です。

今回は、システム情報工学等技術室の小野雅晃さんです。
「学生の頃からお世話になっているハードウェアの師匠です」

医学医療系准教授
宮増フラミアさん

私のリラックス法の一つに、ガーデニングがあります。毎週末、雑草を抜いたり、芝を刈ったり、剪定したり、いろいろ楽しんでい



ます。タンクトップとショーツ姿で、腕に太陽を浴び、全身に汗をかくことがとても好きです。翌日は、たいてい体のあちこちが傷みませんが、すべてを忘れ、とてもリフレッシュした気持ちで、翌週の仕事や授業に打ち込めます。庭にあるバードバスやバードフィーダーを目当てにやってくる小鳥たちを見て、リラックスすることも好きです。また、庭で家族と昼食をとったり、友人を招いてバーベキューをしたり、人間と楽しむことも好きです。

今回は、医学医療エリア支援室の佐藤菊枝さんです。
「英語医療面接ワークショップの模擬患者もしてもらっている仲間であり、私にとってとても重要なサポーターです」

リ シ ー イ ッ セ イ



総務部職員課
胡美穂さん

??年前の20代の頃から、大学バレーを観戦に行っています。しかしながら、最近思うこと…部員数の減少です。



少子化とはいえ、正直、寂しいところです。それからもうひとつ、寂しいことが「筑波大学の応援が少ない」ということです。保護者の方はもちろんいらっしゃいますが、対戦相手の応援の方が圧倒的に多く…。地理的な問題もあるかもしれませんが、都内での試合もありますので、バレーに限らず、みなさんも是非、筑波大学の学生を応援してあげてください♪

今回は、グローバル・commons機構の中上聡夫さんです。
「激動?の総務課時代にサポートしてくれました。文科省～アメリカと渡り、筑波大学に舞い戻った、時代を担う期待の国際派です♪」

学生部学生生活課
貝瀬隆拓さん

一昨年の秋、初めての子どもが生まれました。ほんのちょっと前までは何もできない赤ん坊だったのに、時間が経つのは早いもので、この4月からは元気に保育所に通っています。色々なことに興味を持つようになり、いたずらをしては叱られることもしばしば…。うわーんと大泣きしたかと思えば、またすぐに新しい事を発見して満面の笑みを見せる息子を眺めていると、「人生を謳歌してるなあ、僕ももっと新しいことに挑戦してみようかな」と元気をもらいます。子育ては手探り中で、まだまだ未熟なお父さんですが、息子と一緒に成長していけたらと思っています。



今回は、人間系准教授の宇佐美慧さんです。
「学生担当教員として学生支援にご協力いただいています。気さくで笑顔が爽やかな先生です」

附属大塚特別支援学校教諭
高津梓さん

幼い頃から「お店」は憧れの場所であり、居場所の一つでした。花屋やプラモデル屋…お店の方にはきっとご迷惑でしたが、毎日のように入り浸り、仕事やお客さんとのやりとりなど色々な世界を見せてもらいました。掃除や店番、広告のイラスト描き等、ちょっとしたお手伝いをさせてもらえるのも嬉しかったです。今の興味関心はもっぱら飲食屋さん。お酒好きなのもあり、いくつかのお店にぶらりとおじゃましたり、お料理の見学をするのが楽しみとなっています。写真はときわ台駅前にある渦巻き看板のとあるお店。おひとりさまのお客さんも多く、美味しいお料理を頂きつつお話にも花が咲く、素敵な場所です。



今回は、附属久里浜特別支援学校教諭の稲本純子さんです。「穏やかで優しい稲本先生には、新任の頃からたくさん支えてもらいました。また一緒に遊びにいきましょう!」

総務部職員課
中西直子さん

地元が関西のため、GWとお盆と年末年始のたびにUターンラッシュにもまれながら帰省しています。日程に余裕のあるときには家族で旅行へ出かけています。一度冬に朝4時起きでバスに乗り、ビニールハウスでいちご狩りをしたことがありましたが、寒さと眠さといちごの甘さが忘れられない思い出になりました。一昨年は震災復興のための東北ツアー、昨年は沖縄へ初めて行きました。独特の空気があって、食べ物がどれもおいしかったことと、宿では夜通しヤモリの鳴き声が出ていたことが印象に残っています。今年の夏はどこに行くか考え中です。



今回は、人文社会系教授の山中弘さんです。「教務担当時に学類長をなさっておられ、大変お世話になりました。飲み会ではいつも楽しいお話をしてくださいます」

T S U K U B A C O M M U N I C A T I O N

医学医療系講師
石川正憲さん

7年前に、庭付き一戸建てを手に入れました。考えていたより庭にスペースがあり、やむを得ずガーデニングを開始。まずは芝生。きれいにするにはとても大変です。年がら年中芝刈り、雑草抜き、施肥と気を抜けません。ようやく管理できるようになってきた頃に家族から、「花より食べられる果物がいい」とアドバイス(注文ともいう)。ブルーベリーやフェイジョア、イチジクに巨峰等々を植えました。これまた大変で、ちゃんと食べられるものを作るのは至難の業です。本当に農家はすごいなあと感激します。私は精神科医ですが、学生と一緒に休学、留年生の居場所作りの活動を始めています。



今回は、生命環境系教授(農林技術センター)の林久喜さんです。「附属病院の治療でご協力頂いています。大人から子供まで農業に引き込むアイデアいっぱい先生です」

図書館情報エリア支援室
西島悠策さん

休日はもっぱら、1歳の娘を連れて公園に出掛けます。最初はよたよた歩くだけだったのが、次第に公園中を走りまわるようになり、最近は滑り台の階段も登れるようになりました。親として成長がうれしい反面、ケガをしやすいかとの心配は増すばかりで、いつも子供の背後でミーアキャットのようにそわそわしています。いずれは、我が子を千尋の谷に突き落とす獅子のごとき父親になってやろうと意気込んでいますが、道のりは遠そうです。ちなみにミーアキャットの名誉のために補足すると、子供にサソリを狩らせたりする結構スパルタ教育な動物らしいです。すごいぞミーアキャット。



今回は、システム情報エリア支援室の若林森彦さんです。「気の置けない同期です。その爽やかな笑顔と心遣い気配りで、若手No.1注目株との呼び声も高いです」



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【茗溪会とは】 一般社団法人茗溪会（江田昌佑理事長）は、筑波大学同窓会を母体とする社団法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校（東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など）の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

筑波大学宿舎祭「やどかり祭」は、今年で40回目を迎え、去る5月30日（金）31日（土）の両日実施されました。近隣の商店や筑波学都資金財団、紫峰会からの支援を得て、約250人にのぼる学生による実行委員会が企画・運営しました。第40回という節目の今年、実行委員長に苦勞話を寄せていただきました。なお、筑波大学学生宿舎は、茗溪会の関連法人である筑波学都資金財団が管理運営を行っています。

拍手喝祭「いい祭りだった」と称賛し合えるように

第40回宿舎祭「やどかり祭」を終えて

第40回宿舎祭実行委員会委員長 滝本壮大（理工学群工学システム学類3年）



今年第40回という節目を迎えた宿舎祭でしたが、両日も天気に恵まれ、たくさんの方々に来場していただくことができました。宿舎祭は、新入生を中心とした学生同士の交流、また学生以外の方々にも祭りに参加していただくことで、学生と地域の交流の場となることを目的としています。また、今回の宿舎祭のテーマは「拍手喝祭」でしたが、祭りを称賛の拍手であふれるようなものにしたという思いから決めさせていただきました。

今年40回を記念して、40回記念企画「福男レース」を行いました。分かりやすく、インパクトのある企画を行いたいと考えていたため、企画立案の段階で多くの企画家が拳がってはボツと

なりました。そんな中、ルール、内容が単純明快で、メインストリートを大人数が駆け抜けるという迫力のある福男レースという案が拳がり、行方になりました。安全面やルートの確保など、様々な問題がありましたが、多くの方々のご協力があったからこそ、当日はけが人を出さず、無事に行うことができたのだと思います。

福男以外にも御興企画やゆかたコンテストなど、様々な企画を行い、成功させることができたのも、出演してくださった皆様、そして来場してくださった皆様のおかげです。このように振り返ってみると、第40回はテーマと目的の両方をかなえ、委員だけでなく来場してくださった皆様ととも

に祭りをつくり、最後には関わった全員が、いい祭りだったと称賛し合えるようなものにできたのではないかと思います。またこの祭りによって、新しいつながりができ、皆様のこれからの生活をより良いものにする手助けができたのではないかと思います。

最後にこの場をお借りして、開催にあたってご協力いただいた方々、来場して下さった皆様、そしてともに祭りを作ってくれた仲間にお礼を述べたいと思います。今までの40年の積み重ねを無駄にせず、これからも宿舎祭が、学生や地域の身近なものとして愛される「祭り」となることができるようにしていきたいです。





本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

[紫峰会とは] 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業(奨学金の支給など)、学生生活支援事業(緊急貸付金、コピーサービスなど)、広報・普及事業(紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など)です。学生の保護者、卒業生とご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

UTclubによるUTcollection開発

これまで紫峰会では、UTclubという学生ボランティアグループを募り、筑波大学オリジナルブランドUTcollection(ユージーコレクション)の開発を行ってきました。もともとは学生有志の集まりでしたが、近年は大学との協働による活動が増えてきました。数年前には大学広報室による「筑波大学を創る」という特設自由科目が開設され、この授業の中の大学グッズ開発グループにUTclubが協力し、筑波大学トイレトペーパー「ツクルクル」などの商品化が実現しました。

平成25年度からは、「大学を開くアートデザインプロデュース演習」の一環として活動しています。「ものづくりを通して大学や社会に貢献しよう!」をモットーに、芸術系の五十嵐浩也教授の指導の下、大学の研究室や附属学校、地域との連携による大学グッズ企画を軸として活動を展開しています。通常の活動は、週1回の全体ミーティングと、班別のミーティングとなっています。全体ミーティングでは、各プロジェクトの進捗状況の報告、全体で行う学園祭企画の話し合いなどのほか、商品化に必要な知識・技術などの研修を段階的に行って、情報共有とスキルアップを図っています。昨年度の班別の活動を報告します。

■ UT Project班

このプロジェクトは、茨城県の伝統工芸「結城紬」を、本学や筑波研究学園都市の関係者が身近に接する機会を提供し、結城紬産業の活性化に資することを目的としています。本学教職員、紫峰会、茨城県繊維工業指導所などの有志による産学官連携プロジェクトに端を発して、昨年度からUTclubの班として活動を行っています。



旗織り機の説明に熱心に聞き入る学生たち

現段階の目標は、結城紬を象徴する商品を開発し、大学土産、研究学園都市土産としての足場を築くということで、学生の結城紬や産地の現状に対する理解を深めるため、茨城県繊維工業指導所や現地問屋の見学会を実施しました。また結城の問屋から結城紬の端布、きりすね(織機の残糸)の提供を受け、これを元にして商品企画と試作品作りなどを行いました。

■ スクールマフラー班

マンチェスターで160年以上にわたり繊維製品を供給し続けているファクトリーの代理店から提案を受け、スクールマフラーの企画を行うことになりました。スクールマフラーは、英国や米国では各大学のイメージカラーを配した代表的な大学グッズとなっています。本企画では、筑波大学の公式色の1つ「つくば紫」を基軸として2パターンのスクールマフラーの商品化に至りました。

また、「つくばブルー」をあしらった応援用マフラータオルの企画も検討中です。



■ わかぎり班

「工房わかぎり」は、知的障がい者に働く場を提供し日々の生活や作業を通して社会自立への援助を行っている作業所で、その親たちによって組織されています。



利用者たちと一緒に作業を体験

附属大塚特別支援学校の卒業生の多くが在籍し(利用者)、主に革製品を中心に自主製品の制作に取り組んでいます。プロジェクトでは、学生と利用者との相互理解の中から双方にとってメリットのある商品企画を行うことを目指しています。

まずは学生が、知的障がい者への理解を深めるとともに、附属大塚特別支援学校や工房わかぎりとの信頼関係を深められるよう、昨年度は、利用者や学生の交流を軸として、作業体験や打ち合わせを行いました。また、工房わかぎり制作する革製品などを学園祭の時にUTshopにおいて販売する活動なども行いました。

■ 藻類クリアファイル班

植物系統分類学研究室がつくば科学フェスティバルに出展した際、研究室ブースのノベルティとして配布した藻類クリアファイルが好評だったため、研究室の成果を継続的にPRできるUTcollectionとしての開発提案があり、企画するに至りました。商品化に向けて、最新研究で話題となっている藻類を取り入れるなどのデザイン変更、解説紙の作成や販売方法などを検討し、企画書・原価計算書にまとめました。最終的に2013年8月末から販売が開始され、人気商品として好評を博しています。



Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(2014年4月~6月)

新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	本学は、ホームページで、がん治療の解説をする動画の一般公開を開始 第1弾は「肝細胞がん」特集	大河内信弘教授(医学医療系) 櫻井英幸教授(医学医療系 陽子線医学利用研究センター長) 森健作准教授(医学医療系) 福永潔講師(医学医療系)	毎日・常陽(4.5)産経(4.20) 東京(4.22)
2	本学で入学式。学群生2,217人、大学院生2,417人が入学	永田恭介学長	朝日・読売・産経・ 茨城・常陽(4.8)
3	本学に元プロ野球選手の工藤公康、吉井理人、仁志敏久の3氏が大学院に入学	工藤公康(人間総合科学研究科 博士前期1年) 吉井理人(同1年) 仁志敏久(同1年)	朝日・毎日・読売・ 日本経済・産経・ 東京・常陽(4.8)
4	齊藤泰嘉教授(芸術系)の研究グループが、妖怪伝説などに触れながら 南千住エリアを散策できる、スマートフォンのアプリ開発	齊藤泰嘉教授(芸術系)	東京(4.10)
5	科学技術週間に、本学は「キッズ・ユニバーシティ」を開催		日本経済(4.12)読売(4.13)
6	本学が基準適合一般事業主(子育てサポート企業)に認定された	東照雄副学長	常陽(4.15)毎日(4.19)
7	本学学生団体「WorldFut TSUKUBA」が、4月29日に、靴を履けない途上国の 子どもたちの生活を体験するために、大学内外を裸足で歩くイベントを開催	「WorldFut TSUKUBA」 室山万梨那(国際総合学類3年) 植竹渉(同3年)	常陽(4.24)読売(4.25) 朝日・常陽(4.30)
8	本学は、マレーシアとカザフスタンに海外オフィスを開設	キャロライン・ベント副学長	読売・茨城・常陽(4.25) 日刊工業(5.2)
9	長瀬博教授らがかゆみを抑える神経を発見	長瀬博教授(国際統合睡眠医科学研究機構)	日本経済(4.26)夕
10	関口章教授が紫綬褒章を受章	関口章教授(数理工学系 学際物質科学研究センター)	朝日・毎日・読売・日本経済・ 産経・東京・常陽(4.28)
11	藤野滋弘助教や篠崎鉄哉さんが、海洋生物痕跡が津波調査などの 有効な指標になることを発見	藤野滋弘助教(生命環境系) 篠崎鉄哉(生命環境科学研究科 博士後期2年)	毎日(4.30)夕
12	英教育専門誌発表の世界の新興大学ランキングで本学が44位(昨年49位)		日本経済(5.1)東京(5.1夕/5.2) 産経・茨城(5.2)
13	▽インサイド:日本代表クラスを指導する人材育成を目指す「ナショナルリーディングコーチ 養成プログラム」開講など、本学は、国際競争力強化のための長期的な取り組みをしている	清水諭教授(体育系) 吉井理人(人間総合科学研究科 博士前期1年) 仁志敏久(同1年) 杉本美香(同1年)	毎日(5.3)
14	フットサル・Fリーグ「湘南ベルマーレ」の久光重貴選手が、 附属病院で小児がんなどと闘う子どもたちを見舞った	附属病院	朝日・毎日・産経・常陽(5.8) 読売(5.9)
15	本学とエーザイは、炎症性腸疾患向け新薬の共同開発へ	深水昭吉教授(生命環境系 生命領域学際研究センター)	日経産業(5.8)日刊工業(5.13)
16	大澤博隆助教が目の感情表現を代行してくれるメガネ「エージェンシーグラス」を開発	大澤博隆助教(システム情報系)	読売(5.10)
17	本学は2020年東京五輪に備え、総合科目「異文化コミュニケーションの実際〜グローバルマナー」 を開講。講師は元客室乗務員の江上いずみさん	真田久休体育専門学群長	産経(5.12)
18	裏出良博教授とライオンは、清酒の製造に用いる酵母に睡眠の質を高める効果があることを発見	裏出良博教授(国際統合睡眠医科学研究機構)	日刊工業(5.19)日本経済(6.10)
19	本学は、国際バカロレア特別入試を新設	阿江通良副学長	日経産業(5.20)
20	「デジタル・ユース・アワード」のアプリ部門で、木藤紘介さんと吉田拓真さんがグランプリを受賞	木藤紘介(情報メディア創成学類4年) 吉田拓真(同4年)	産経(5.23)
21	▽探訪ラボ:高谷直樹教授〜カビや微生物を研究する負荷適応微生物学研究室を主宰	高谷直樹教授(生命環境系) 茂本亮輔(生命環境科学研究科 博士前期2年) 伊藤恵里子(同1年)	読売(5.25)
22	陸上関東学生対抗選手権で、陸上部女子が、22年連続24度目の優勝	陸上部	東京・読売(5.26)
23	浅井武教授らは、サッカーW杯公式球について、 「狙い通りにパスしやすく、日本代表に有利」と、ロボット実験などによる研究結果を発表	浅井武教授(体育系)	日本経済(5.25) 朝日・読売・東京・ 茨城・常陽・日経産業(5.30) 産経・茨城(6.11)読売(6.15)
24	征矢英昭教授らは、10分間の軽い運動が、脳の認知機能を向上させるという研究論文発表	征矢英昭教授(体育系)	読売(5.30)日本経済(6.1)
25	本学は、約114億円を投じて学生宿舎「グローバルレジデンス」を建設すると発表		日刊工業(5.30)
26	第40回のをどかり祭(学生宿舍祭)を開催	滝本壮大(工学システム学類3年)	常陽(5.31)茨城(6.5)
27	体操全日本女子総合選手権で、井上和佳奈が3位となり、 今秋の世界選手権の代表入りが決定	井上和佳奈(体育専門学群1年)	朝日・毎日・ 日本経済・産経(6.8)
28	附属病院は、陽子線医学利用センターの2013年度の治療患者数が435人で、 過去最高と発表	陽子線医学利用センター 櫻井英幸教授(医学医療系 陽子線医学利用センター)	常陽(6.12)読売(6.16)
29	日本ラグビー協会発表の、パンフィック・ネーションズカップ・米国戦のメンバーに、福岡堅樹が選出される	福岡堅樹(情報科学類3年)	東京・毎日(6.13)
30	元素記号を使ったカードゲームの考案者、米山維斗さんが、 「ケミストリー・クエスト株式会社」の代表取締役役に就任	米山維斗(附属駒場中学校3年)	毎日(6.13)

テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	最先端研究開発支援プログラム(FIRST)について、 山海嘉之教授ら研究者と若者たちが語り合う	山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)	NHK Eテレ 「TVシンボジウム」(4.26)
2	「ぶらりカレッジの旅」というコーナーで、川合俊一さんが本学キャンパスを紹介		フジテレビ 「COLLEGE×SPORT」(5.25)
3	睡眠・覚醒を制御するオレキシンの発見から現在の研究内容までを紹介。 柳沢正史教授の他、国際統合睡眠医科学研究機構研究員たちも多数出演	柳沢正史教授(国際統合睡眠医科学研究機構長)	BSフジ 「ガリレオX」(5.25, 6.1)

※所属、職名、学年は2014年6月現在

Event calendar

7 july

- 3日(木) 国際バカロレア特別入試
キックオフシンポジウム
- 5日(土) Global Commons Café
- 8日(火) 学際物質科学研究センター(TIMs)
研究交流会(総合研究棟B)
- 15日(火) 第3回AEARU競技大会
バスケットボール大会(中央体育館)(~17日)
- 16日(水) 入学試験「ACⅡ期」
- 18日(金) TCC 筑波クリエイティブ・キャンプ(~20日)
- 19日(土) 入学試験「編入学」(~20日)
「帰国生徒(10月入学)」
- 20日(日) 夏休みアート・デイキャンプ&
アートたんけん隊2014(~21日)
- 22日(火) 筑波大学 新技術説明会(JST東京本部別館)
SUMMER LECTURE in 2014
for Nanotechnology / Nanoscience(~8/5)
- 25日(金) 平成26年度筑波大学卒業式・学位記授与式(7月期)
2014 Tsukuba Nanotechnology Symposium
(TNS' 14) (~26日)
- 30日(水) 合格発表「ACⅡ期/編入学/帰国生徒(10月入学)」
- 31日(木) 春ABCモジュール期末試験(~8/6)

8 august

- 9日(土) 夏季休業(~9/30)
- 19日(火) 夏休みアート・デイキャンプ2014展(~25日)
- 23日(土) 大学説明会(~24日)
- 25日(月) TIA連携大学院共通シンポジウム
- 26日(火) 第2回 TIAナノエレクトロニクス・
サマースクール(~29日)
第2回 TIAナノグリーン・
サマースクール(~29日)
- 29日(金) 思春期学会プレコンgres
「睡眠と健康生成(仮)」
(つくば国際会議場)
- 31日(日) 大学説明会

9 september

- 2日(火) 先端計測・分析サマースクール(~4日)
- 16日(火) 学長を囲む会
- 22日(月) ナノ加工・計測序論と
ファンドリー実習(~26日)
- 24日(水) 国際シンポジウム "Homeodynamics in Clocks,
Sleep and Metabolism -Tokyo Translational
Therapeutics Meeting"(東京大学)
- 30日(火) 平成26年度秋学期入学式



